

ルノミナラヌ又自カラ支拂ヲ得以テ永ク為
替金ノ支拂ヲ受ツノ患ナキニ在リ然レモ以
為替所有權今仍ホ訴訟中ニ在リテ未定ナル
カ或ハ其所有者未タ自カラ支拂ヲ得ヘキノ
條件ヲ踐行(第七百六十一條及ヒ第七百六十
三條)スルヲ能ハサルカ故ニ限制ナクテ支
拂ヲ請求スルヲ得ヌ又他ニ已ニ愈ル
權利者アリ之ニ為替金ヲ拂フヘキ場合ノ為
メニ擔保ヲ供セサルヘカラス其他權利者ニ
シテ為替ヲ他人ニ與ヘ或ハ之ヲ失ヒタル等
ニ因リ支拂人ニ對レテ支拂ヲ要求スルノ道
ヲ失ヒシ丁アルヘモ此場合ニ於テハ其權利

者裁判所ニ申出テ商業帳簿或ハ通信等ヲ以
テ其所有權ヲ證明シ獨リ其權ナク所持人ニ
對スル支拂ヲ止ムルノミナラヌ併セテ自カ
ラ其支拂ヲ受ルノ目的ヲ以テ裁判所ノ命令
ヲ受ケサルヘカラス然レモ此命令タル確定
裁判ト視ル可ラカ故ニ裁判所ハ唯々假
ニ之ヲ下スヲ得ヘシ以テ他人ノ權利ハ之カ
為メニ消滅シタルニ非ラサルナリ故ニ故障
申立人ハ後日已ニ愈ルノ權利他人ニ屬スヘ
キハ、為メニ擔保ヲ供セサル可ラヌ是レ則
テ此場合ノ第七百六十三條ノ場合ト異ナル
所ニシテ該條ノ場合ニ於テハ為替ニ引受ナ

キキニ擔保ヲ供レテ支拂ヲ要求スルモノニ
シテ擔保ニ對シテ支拂ノ義務ハ固ヨリ既
ニ存シ裁判官ノ判決ハ獨リ其擔保ノ品類ニ
係ルノミ何トナレハ所持人既ニ爲替ヲ以テ
所持人タルノ證ヲ示シタレハナリ佛國商法
第百五十一條、此場合ニ於テモ裁判所ノ命
令ヲ要スルモノトスルハ不詳ナリ之ヲ解ス
ルニハ保證人ノ支拂能力ニ就テ爭論ノ起リ
タルハ判決ヲ下ストノ意ヲ以テスヘク是佛
國法律學上ニ於テモ是認スル所ナリ(コラウ
ノル第ニ卷第ニ百七十九葉然レモ本條ノ場
合ニ於テハ故障申立人ハ一通ノ爲替ヲ有セ

サルカ故ニ裁判官支拂ノ命令ヲ下ス前ニ爲
替所百權ヲ證明セサルヘカラス而シテ此支
拂ノ命令ナケレハ支拂人故障申立人ニ支拂
ヲヘキ義務アルナキモノナリ(佛國商法第
百五十二條)コラウノル第ニ卷第ニ百七十九
葉

若シ故障申立人ニ於テ擔保ヲ供スルヲ得ス
又ハ之ヲ欲セサル時ハ支拂人ハ支拂ノ義務
ヲナシ是ノ如キ時ハ只々爲替金ノ保管ヲ要
求スルヲ得ヘキノミ此預ケ金ヲ爲スノ權利
ハ満期日ニ爲替ヲ以テシ或ハ擔保ヲ供レテ
爲替金ヲ請求スル者ナキ時ニ於テモ既ニ有

スル所ナリ爰ニ至リテ一問題アリ曰ク故障
申立人ハ其為替ニ引受ナキ時ニ於テモ擔保
ヲ供スヘキノ義務アル乎ト原則上ヨリ之ヲ
論スレハ否ヲ以テ答ヘサル可ラサルカ如シ
何トナレハ引受ナケレハ支拂人支拂フノ義
務ナケレハナリ(コラワール第三卷第三百八
十一葉)然リト雖モ此ニハ唯々支拂人ノ滿期
日ニ於テ支拂フヘキ義務ノミニ止マラス併
セテ其權利ヲ論スル者ニシテ例之ハ滿期日
ニ於テ讓受人ニシテ所持人タル者ト真ノ為
替所有者タリト主張スル者(抵當トシテ所持
人ニ讓渡シ後日既ニ其負債ヲ支拂フタル等

ノ口實ナシテト兩人支拂人ニ申出ラタリト
セシ歟是時ニ於テ支拂人ハ將ニ之ニ答ヘテ
言ハシ曰ク是為替々余ニ宛テ、振出シタル
モノニシテ余既ニ為替資金ヲ得タリ故ニ余
ハ此為替ヲ支拂ハシト欲シ又支拂ハサル可
ラス否ヲサレハ延滞利子、要求或ハ振出人
ノ償還要求ヲ受クルヤ心セリ裁判所ハ既ニ
今日所持人ニ支拂フテ禁シタリト雖モ之
カ為メニ他ノ要求者ニ支拂フノ理アルニ非
ス何トナレハ若シ以故障申立人ニシテ所持
人トシテ訴訟ニ於テ曲者ト決スルニ於テハ則
テ所持人ハ余ニ對シテ支拂ヲ要求スヘキ余

已ニ此故障申立人ニ支拂フタリトモ所持人
ハ之ヲ許諾スヘカラサルヲ以テ復タ更ニ支
拂フヘキノ地位ニ陷ラントス故ニ故障申立
人ニシテ今日支拂フ丁ヲ要求スルニ於テハ
石ノ場合ノ為メニ擔保ヲ供セシ丁ヲ望ムト
此答辞々固ヨリ其理由アリ故ニ本案ハ佛國
商法第百五十二條ニ明文アルカ如ク引受十
キ為替ト引受アル為替トノ間ニ區別ヲ立テ
サルナリ

第七百六十七條

支拂人カ正當ノ理由ナクシテ滿期日ニ為替金
額ノ支拂又ハ寄託ヲ拒ムキハ所持人ハ其次ノ
業日ニ拒證書ヲ作り且所持人カ償還請求ヲ為
サント欲スル者ニ拒證書ノ作成ヲ通知スル丁
ヲ要ス然レモ所持人ハ為替手形ニ明記アルニ
因リテ拒證書作成ノ義務ヲ免カル、丁ヲ得
支拂ヲ為サス或ハ預ケ金ヲ為サ、ルカ為メ
ニ拒證書ヲ作ル丁ハ總テ各國ノ法律ニ定ム
ル所ニシテ其法式ナキ通知ニ反シテ必要ナ
ルノ理由ハ已ニ第七百三十九條ニ於テ引受
ヲ為サ、リシ片ニ係ルモノト同一タリ拒證

書ヲ作ルハ前諸條ニ掲ル變則ノ場合ニ於
テモ必要ニシテ唯々一通ノ爲替ヲモ存セサ
ル時ニ限り爲替ノ全文ヲ拒證書ニ謄寫(第七
百九十五條)スルニ代ヘテ可及的精密ニ爲替
ノ文意ヲ載ルノ變体アルノ三佛國商法第百
五十三條ニ於テハ以テ如キ場合ニ係リテ予
口テスタレヨト稱ス(アラワール第三卷第
三百八十五葉)若夫爲替所有者擔保ヲ供スヘ
キ場合ニ在テ之ヲ供セサル時ハ其拒證書無
効タルヘシ

拒證書ハ日曜日及ヒ休日ヲ除キ滿期日ノ翌
日ニ於テ之ヲ作ラサル可カラズ是レ引受テ

キカ爲メニ作ル拒證書ニ就テ定メタル第七
百三十四條ノ規則ト相ヒ照應スルモノニシ
テ支拂人ニ考慮ノ餘暇ヲ與ヘ以テ變則ノ場
合ニ於テ必要ノ處置ヲ施スヲ得セシムルノ
用アリ所有者ハ固ヨリ既ニ滿期日ニ於テ拒
證書ヲ作ルヲ得ヘシト雖モ以テ期日中ニ支拂
ヲ爲レタルハ自カラ其費用ヲ負擔セザル
可ラス故ニ滿期日ノ終極ニ至ルモ支拂ヲ爲
サ、ル時ニ於テ始メテ之ヲ拒絶シタル者ト
視ルヘシ然レモ滿期日中ニ一タヒ支拂ヲ受
求レタルニ於テハ所持人其義務ヲ盡セリト
謂フヘシ必スレモ其日ノ終局ニ於テ再ヒ呈

示スルヲ要セス

蓋シ支拂拒絶ノ為ニ拒證書ヲ作ルハ支拂
ヲ為サ、ル限リハ如何ナル場合ト雖モ必要
ニシテ假令ニ既ニ引受キキカ為メ、拒證書
ヲ作り又ハ支拂人ノ死去或ハ破産シタルモ
ト雖モ異同アルトナシ何トナシハ是レ併セ
テ償還義務者、為メニスル事實、公證タレ
ハナリ(佛國商法第百六十三條)是ヲ以テ本案
ニハ拒證書ノ必要ニ制限ヲ立テス唯タ一個
ノ例外ヲ許スノミニシテ無拒證書或ハ無費
用等ノ諾ヲ以テ明ニ為替面ニ於テ之ヲ免除
スル時即チ是ナリ然レモ拒證書ヲ作ルノ義

務ヲ免除シタルカ為メニ併セテ時ヲ失ナハ
ス支拂ノ為メ呈示ヲ為スノ義務ヲ免除ス
ルニ非ス必スヤ之カ為メニハ亦タ明ニ免除
スルヲ要ス而シテ拒證書ヲ作ルヘキ義務、
免除ハ獨リ之ヲ記シタル者ノミニ對シテ効
力アリト雖モ讓受人ハ皆之ヲ利用スルヲ得
ヘシ此義務ノ免除ニシテ特別ノ契約ヲ以テ
為替面外ニ定メタル時ハ是レ唯タ其契約者
ノ間ニノミ用ユヘキモノナリ所持人ニシテ
拒證書ヲ作ラザリシ時ハ時ヲ失ハス為替ヲ
呈示シタリトノ證據ハ第一ニ拒絶通知ニ在
リ蓋シ償還義務者ハ此點ニ就テ呈示ノ實否

ヲ論スルヲ得ヘシト雖此爲ナニ證據ヲ舉ク
ヘキノ義務アリ又拒證書義務ノ免除ハ昨
所持人ヲシテ拒證書ヲ作ルノ義務ヲ免レレ
ムルノニニシテ其權利ヲ奪フモノニ非サル
丁猶ホ引受キカ爲メノ拒證書ヲ作ル時ニ
於ケルカ如シ故ニ所持人ニシテ仍ホ拒證書
ヲ作ルモ償還義務者ハ其費用ヲ償ハサル可
ラサレナリ(獨逸爲替法第四十二條)ラワ
止第三卷第七十八葉(佛國ニ於テハ千八百
十年六月五日ノ法律ヲ以テ無費用(ル
トール)ノ附言ニシテ若シ爲替印紙稅規
則ヲ規避シタル時ハ無効タルヘシト定
メタ

リ英國ノ法律ニ依レハ獨リ外國爲替ニ限リ
拒證書ヲ作ルヘキモノトス
爰ニ注意スヘキハ拒證書義務ヲ免除スルモ
通知ノ義務(第七百八十一條)ハ變セサル
是ナリ拒證書ノ義務ハ振出人或ハ裏書人
之ヲ免除スルヲ得又々他所拂爲替(第七
百七十八條)ニ於テハ引受人之ヲ爲ス
丁ヲ得

第七款 榮譽支拂

第七百六十八條

拒マレタル為替手形ハ振出人又ハ裏書讓渡人
ノ榮譽（為替榮譽）引受人支拂人又ハ第三者之ヲ支拂フ
ヲ得

榮譽支拂トハ某償還義務者ノ利益又ハ榮譽
ノ為メニ支拂ニ就テ他人ノ干渉スルヲ
是レ支拂人支拂ヲ拒ミ以テ引受ヲ拒ミタル
場合（第七百四十四條）ニ於ケルカ如ク拒證書ヲ
作りタル時ニ限り為ス可キ者ナリ何トナレ
ハ榮譽引受ニ依リテ償還義務者其擔保ヲ供
スルノ義務ヲ免カル、カ如ク榮譽支拂ハ之

ヲシテ償還ノ義務ヲ免カレシムル者ニシテ
支拂ナキカ為メ、拒證書ヲ作ラサルニ於テ
ハ此償還義務ヲ生スルヲ無ケレハナリ為替
所持人ニシテ参加人ヨリ支拂ヲ受ケタルキハ
通知及訴訟ヲ以テ償還要求ヲ實行スルノ要
用ヲ免カレ此要用ヤ爾來参加人ニ移ル故ニ
参加人ハ為替所持人ニ對シテハ償還義務者
ノ地位ニ立ケ其償還義務者ニ對シテハ支拂
ヲ受ケサル為替所持人ノ地位ニ在リ又榮譽
支拂人ハ榮譽引受人ト同シク受榮譽者ヲ掲
クルトテ得敷多ノ参加人アル中ハ其参加ニ
因テ最モ多数ノ償還義務者ヲシテ其責ヲ免

カレシムル者ヲ以テ第一トシ又受榮譽者ヲ
掲ケサル中振出人ヲ以テ受榮譽者ト見做ス
(第七百四十五條)モ榮譽引受人ノ片ニ於ケルカ
如シ榮譽支拂ハ佛語ニテ「フエイマン、パール
アンテルワンシジョン、アフレール」(又「スール」)フロラ
ー、パール、ヲニヨールト云ヒ英語ニテ「ハ、パイ
メント、スカラー、フロテス」ト(又「グオール、ヲノ
ル」)ト云フ
満期日前ニ榮譽支拂ヲ為スル能ハサルハ前
ニ論シタル所ニ依リテ明カナリ若シ期日前
ニ支拂ヲ為シタル中ハ為替上ノ榮譽支拂ト
為サス且榮譽支拂人其危険ヲ擔當ス可シ故

ニ支拂人及ヒ償還義務者ハ
ヲ免カレ、^ト能ハサルヲ猶^ホ支拂人ノ満期日
前ニ支拂ヲ為シタルノ時ノ如シ(第七百五十
九條)満期日前、於テ他人ヨリ支拂ヒタル時
ハ概シテ支拂人ノ計算ヲ以テ為シタル者ト
視^ス做サ、ル可カラズ獨リ此點ヨリ論スレハ
關係ナキ他人ト雖モ負債ヲ償還スルヲ得
ハレトノ普通原則(佛國民法第千二百三十六
條)ヲ為替上ニモ通用スルヲ得ヘシ故ニ満
期日前ノ支拂(殊ニ拒證書ナキ者)ハ縱令豫備
支拂人ヨリ引受ヲ為シタル後ニ支拂フトル
モノト雖モ受榮譽者ニ對スル償還要求權ヲ

生スルヲ無シ(ブラワーニ第三卷第三百九十

三葉細註

凡フ其為替上ニ義務ヲ有セサル者ハ總テ榮
譽支拂ヲ為スルヲ得ヘシ獨リ他人ノミナラ
ズ支拂人モ亦然リ唯支拂人ハ引受ヲ為サ、
リシ中ニ限ル何トナレハ引受ヲ為シタル中
ハ支拂フノ義務アルカ故ニ隨意ヲ以テ支拂
ヲ擔任スル能ハサレハナリ夫レ支拂人ノ參
加ハ奇異ノ觀ヲ呈スルカ如クナレモ支拂人
ト為リ支拂フ時ニ反シ●相當ノ原因アリテ
存スルヲ無キニ非ス何トナレハ支拂人ト為
リ支拂フ時ハ唯振出人及ヒ其他ノ義務者ニ

對シ要償即チ為替資金ノ請求ヲ為シ得ルニ
止マリ且為替資金ヲ領收シタリトノ推測ハ
唯引受ヲ為シタル中ヨリモ一層ノ深キヲ加
フレハナリ(第八百三條及第八百五條)今ヤ
支拂人ニシテ榮譽支拂人ト為ル中ハ此ノ如
キノ推測ヲ免カレ又其擇フ所ニ後ヒ榮譽
及ヒ其讓渡人ニ向ヒ償還要求ヲ為スヲ得
ヘシ此原因ヨリシテ支拂人ハ振出入ノ名譽
ノ為メニモ支拂ヲ為スヲ得ヘキナリ又榮
譽引受人モ假令ニ既ニ其引受ヨリシテ義務
ヲ負フニ拘ハラズ参加スルヲ得然レ氏榮
譽支拂ノ義務ハ其為替支拂ニ至ラサル場合

ノ為メニスル有限ノ義務ニシテ其支拂ハサ
ルヲ拒證書ヲ以テ公證セサル可カラズ故
ニ榮譽引受人ノ支拂ノ前ニハ支拂ノ拒絶ト
此ニ就テ拒證書ヲ作ルヲ有ルヲ要ス是即チ
佛國及ヒ獨國ノ法律ニ於テ主義トスル所ナ
リ(佛國商法第百五十八條獨國為替法第六十
二條及ヒ第六十三條且「スミス、メルカント、ロ
」第百五十六葉)英國ニ於テハ獨リ外國ノ
為替ニ係リ拒證書ヲ作ルヲ要ス然レ氏內國
ノ為替ニ就テモ通常其支拂拒絶ノ通知則チ
法式上ノ手續ニ依ラス實際ノ事ヲ記載スル
ヲ用ユ

第七百六十九條

豫備支拂人其他ノ参加人ノ引受ヲ記シタル為
替手形ハ拒證書作成ノ後直ニ榮譽引受人ニ
支拂ノ為ノ之ヲ呈示ス可シ

本條ノ文意ハ既ニ前條ノ説明ニ於テ其幾分
ヲ論シタルモ、ニシテ豫備支拂人其他榮譽
引受人ノ榮譽支拂ハ隨意ヲ以テスルヲ得ス
為替所持人ハ前ノ拒證書ニ基キ支拂ノ要求
ノ為サ、ル可カラズ故ニ其為替面ニ存スル
不譽引受ヲ匿シ直ニ振出人及ヒ裏書人ニ對
シ償還要求ヲ為スヲ能ハス必スヤ支拂人ノ
支拂ヲ拒ミタル後為替ヲ榮譽引受人ニ呈示

匿ハ隱ニ作ル

不譽引受ヲ匿シ直ニ振出人及ヒ裏書人ニ對

第七百六十九條

豫備支拂人其他ノ参加人ノ引受ヲ記シタル為
替手形ハ拒證書作成ノ後直チニ榮譽引受人ニ
支拂ノ為メ之ヲ呈示ス可シ

本條ノ文意ハ既ニ前條ノ說明ニ於テ其幾分
ヲ論シタルモノニシテ豫備支拂人其他榮譽
引受人ノ榮譽支拂ハ隨意ヲ以テスルヲ得ス
為替所持人ハ前ノ拒證書ニ基キ支拂ノ要求
ヲ為サ、ル可カラズ故ニ其為替面ニ存スル
榮譽引受ヲ匿シ直ニ振出人及ヒ裏書人ニ對
シ償還要求ヲ為スヲ能ハス必スヤ支拂人ノ
支拂ヲ拒ミタル後為替ヲ榮譽引受人ニ呈示

スルノ義務アリ若シ之ヲ為サ、ル申振出
人(即チ受取譽者及ヒ其後ノ裏書人)ニ對スル
償還要求權ヲ失フ

第七百七十條

榮譽支拂若クハ其拒絶又ハ其提供ハ何レノ場
合ニ於テモ之ヲ支拂拒證書又ハ其附箋ニ記載
ス可シ

其拒證書ハ為替手形ト共ニ拒證書費用ノ辨償
ヲ受ケタル上之ヲ榮譽支拂人ニ交付ス

支拂無資力

栄譽引受人ト雖モ其間ニ支拂不能^{無資}カト為リ
或ハ為替資金ヲ請取ラサル等ノ原由アリテ

為替ヲ支拂ハサルト無シトセズ今ヤ参加人

支拂フタルト否トヲ問ハス共ニ之ヲ拒證書

又ハ其附箋ニ記シ之ト連絡ヲ得セシメサル

可カラズ夫レ榮譽引受ニ於テハ支拂人ノ保

スルノ義務アリ若シ之ヲ為サ、ル事不振出
人(即チ受取者及ヒ其後ノ裏書人)ニ対スル
償還要求権ヲ失フ

校正済

第七百七十條

榮譽支拂若クハ其拒絶又ハ其提供ハ何レノ場
合ニ於テモ之ヲ支拂拒證書又ハ其附箋ニ記載
ス可シ

其拒證書ハ為替手形ト共ニ拒證書費用ノ辨償
ヲ受ケタル上之ヲ榮譽支拂人ニ交付ス

榮譽引受人ト雖モ其間ニ支拂不能カト為リ
或ハ為替資金ヲ請取ラサル等ノ原由アリテ

為替ヲ支拂ハサルト無シトセズ今ヤ参加人
支拂フタルト否トヲ問ハス共ニ之ヲ拒證書

又ハ其附箋ニ記シ之ト連絡ヲ得セシメサル
可カラズ夫レ榮譽引受ニ於テハ支拂人ノ保

同典

証人ヨリスル支拂ニ於ケルカ如ク拒證書敢
テ贖物ト為ラス榮譽支拂人ハ支拂人ノ為メ
ニ支拂フニ非ズスレテ振出人或ハ他ノ受榮
譽者^者為メニ支拂フ者^者ナレハ其支拂ヤ償還ノ
支拂ニ擬シテ之ヲ判ス可ク其要件亦之ニ同
シ(佛國商法第百五十八條獨國為替法第六十
二條^ラフラワール^ル第三卷第三百九十三葉)
参加入ハ其時ヲ失スルニ非サレハ皆支拂ヲ
申出ワル^ルヲ得ハシ其申出即チ提供ニシテ
許諾セラレタルニ於テハ直チニ支拂ハサル
可カラス其許諾セラレサルモ亦之ヲ拒証書
又ハ其附箋ニ記註スル^ルヲ要ス何トナレハ是

法律上ノ効力ニ關係アルヲ以テナリ(第七百
七十四條)若シ許諾セラレテ支拂ヲ為シタ
ル中ハ所持人ハ直チニ為替ニ拒證書ヲ附シ
拒證書費用ト引替ニ之ヲ参加人ニ交付セサ
ル可カラス故ニ参加人ハ其為替ト拒證書ト
両フナカラ之ヲ所持人ノ手中ニ^置居ク^可カラ
ス當ニ引受人ヨリ支拂ヲ為シタル時ト同一
ノ規則ニ因ル可シ(第七百六十一條)唯其異ナ
ル所ハ此場合ニ於テハ不支拂トシテ拒證書
ヲ作ル可キカ故ニ為替ニ^取取ヲ記セサルニ
在リ又榮譽支拂人ニ為替ヲ讓渡ス^ルヲ許サ
ス何トナレハ^カカ為メニ最後ノ為替所持人

ニ對シテモ償還要求権ヲ得ルニ至レハナリ
此場合ハ不引受ノ拒證書ニ基キ償還義務者
ヨリ所持人ニ支拂フタル片ト異ニシテ償還
義務者ハ自ラ讓渡人(即チ所持人)ニ對シテ
リニシテ復タ其讓渡ヲ以テ所持人ニ對スル
償還要求権ヲ得ル能ハス是レ参加人ニ在テ
ハ然ラサルナリ故ニ第七百四十三條ニ於テ
ハ縱令ニ必要トスルニ非サルモ為替ノ裏書
讓渡ヲ許シタリ然レ氏本條ニ於テハ満期日
後ニ於ケル参加人ノ支拂ニ関スルモノナレ
ハ敢テ裏書讓渡ヲ許サス以テ参加人ノ要求
ヲ實行スルニハ為替及ヒ拒證書ノ現有ヲ以

テ足レリトセサル可カラス
榮譽支拂ハ引受ト同シク取消ス可カラス(甲
七百三十六條)然レ氏真ノ負債者ニ非サル者
過テ其負債ヲ支拂フタル時ハ其支拂フタル
者ノ返還ヲ要求シ得ヘシトノ普通原則果シ
テ榮譽支拂人ニ適用ス可カラザルヤノ問題
アリ(佛國民法第千二百三十五條第千三百七
十六條第千三百七十七條)此原則ハ概シテ榮
譽支拂人ニ適合セサルモノトス何トナレハ
榮譽支拂人ハ隨意ヲ以テ支拂フ者ナレハ其
決意ノ誤謬ニ出タルノ情由ヲ酌量ス可カラ
サレハナリ然レ氏榮譽支拂人ハ裏書人或ハ

學者ハナラシ

振出人ノ榮譽ノ為メニ支拂フカ故為メニ若シ
其受榮譽者ノ義務ナキニ過刻テ之アリト認
メタル中ハ其返金ヲ要求スルヲ得ヘシ例之
ハ為替ニ存スル受榮譽者ノ署名偽造ニ出テ
タル如キ是ナリ何トナレハ之ニ對シテ償還
要求ノ權ヲケレハナリ佛國法律學ハ此意ヲ
以テ右ノ問題ニ答フ(ブラワール第三卷第四
百八葉)

校正濟

第七百七十一條

榮譽支拂人ハ引受人、振出人及ヒ裏書讓渡人ニ
對シテ所持人ノ權利ヲ承継ス但其權利ヲ主張
スルニハ所持人ト同一ノ義務ヲ履行スルヲ
要ス

此規則ハ佛國商法第百五十九條及ヒ德國為
替法第六十三條ニ掲クル所ナリ然レモ明瞭
ヲ加ヘン為メニ佛國商法ニ明言セサル者ヲ
加ヘタリ曰ク榮譽支拂人ハ引受人及償還義
務者ニ對シ唯為替所持人ノ權利ヲ得ヘシト
故ニ榮譽支拂人ハ支拂ニ就テ引受人ヲ被告
ト為シ振出人及裏書人ヲシテ次條ニ掲クル

同六

制限ニ隨ヒ償還ノ義務アラシムルヲ得ハシ
然レモ其拒證書ヲ通知スルノ時ヲ失フタル
片ハ其償還要求權ヲ失フ(第七百八十一條)又
其要求權ヲ實行スルニハ法律上有效ノ拒證
書ナカル可カラス即チ満期日ニ於テ支拂人
ニ支拂ヲ要求レ法律上ノ期限及ヒ法式ニ從
ヒ拒證書ヲ作ラサル可カラサルナリ
右ノ權利ノ外榮譽支拂人ハ一モ得ヘキ者ナ
シ故ニ其請求取リタル為替ヲ讓渡ス可カラス
何トナレハ既ニ自カラ裏書讓受人ヲ為シタル
者ニ非サレハナリ(アラワール、第三卷第四百
六葉)然リト雖モ其為替所持人ニ歸スル所ノ

為替權ヲ民法ニ依リ榮譽支拂人ニ讓渡スハ
妨々ナシ此場合ニ於テハ必ス民法上ノ讓渡
ニ關スル原則ヲ以テ此讓受人ヲ論ス可シ

榮譽支拂ハ受榮譽者ノ後者統負ヲシテ責ヲ免
カレシム

第七百七十二條

第七百七十三條

榮譽支拂ヲ提供スル者二人以上アル中ハ支拂
入ヲ以テ榮譽支拂入トシ之ニ次テハ最モ多数
ノ義務者ヲシテ責ヲ免カレシムル者ヲ以テ榮
譽支拂入トス

此規則ハ佛國商法第百五十九條及獨國為替

校正濟

法第六十三條第六十四條ニモ掲^レル所ニシテ
柔^レ答支拂人ハ唯受柔^レ答者及ヒ其前ノ裏書人
ニ對シ償還要求ヲ為ス^レ得^レハ其受柔^レ答
者ニシテ振出人ナル片ハ裏書人ハ皆其責ヲ
免カル而シテ参加人数人アル片ハ義務者ヲ
免カレシムル最モ多キ者ヲ以テ其權アリト
スルノ規則ハ柔^レ答引受人ニ関スル第七百十
五條ノ規則ト對照スルモノナリ支拂人ノ他
ノ参加人ニ對シテ其權アルハ支拂人ハ唯振
出人及ヒ其他為替資金義務者ニ對シテ為替
上ノ償還要求權ヲ有スルカ為メニ支拂人ノ
参加ヲ以テ裏書人皆其責ヲ免カル、^レ例

トスレハナリ然レ氏支拂人ノ此權アル唯此
区域内ニ止マルモノニシテ支拂人ニシテ裏
書人ノ為メニ参加シタル片ハ其同一受柔^レ答
者ノ為メニスル場合ニ在テハ他ノ参加人ノ
先ニ在リト雖モ他ノ参加人ニシテ其義務者
ヲ免カレシムル支拂人ヨリ多キ片ハ其先
タル者ハ即チ此参加人ニシテ支拂人ニ非ス
佛國高法第五百九條ハ同國ノ法律學上ニ
於テモ此意ヲ以テ解釋ス^レラ^レワ^レル第三卷
第四葉
柔^レ答支拂人ニシテ拒^レ證書ナクシテ支拂ヲ為
シタル片ハ柔^レ答支拂人タルノ權利ヲ執行ス

ル能ハス此推利ヲ執行スル為メニハ明カニ
参加人ト為リ法律上ノ形式ニ後ヒ支拂フヲ
要ス然レ氏不引受ノ拒證書ハ必要ニ非ラス
唯其引受ケタル後ニ在リテハ参加ヲ為ス能
ハサルナリ(佛國商法第百五十九條)ラワー
ル第三卷第四百一葉ホルシヤルト註釈五百
十一)

第七百七十四條

所持人ハ承諾支拂ヲ受クルトヲ拒ムニ因リテ
受承諾者及ヒ其後者ニ對スル償還請求權ヲ失
フ

本條ハ唯隨意ノ参加ニ適用ス可キモノニシ
テ第七百六十九條ニ定ムル豫備支拂人其他
ノ承諾引受人ノ承諾支拂ニ関スルモノニ非
ス後者ノ支拂ハ所持人敢テ之ヲ拒ムトヲ得
サルト猶最初ノ引受人ノ支拂ニ於ケルカ如
シ若シ之ヲ拒ミタル片ハ縱令其豫備支拂人
ヲ立テタル者振出人ニ非スシテ其後ノ裏書
人ナル片ト虽モ總テノ義務者ニ對シ其償還

要求權ヲ失フ可シ蓋シ裏書人ヨリ豫備支拂
人ヲ立テタル場合ニ於テハ是レ唯其之ヲ立
テタル人ト其後ノ讓受人トニ関スル事ニシ
テ其以前ノ讓渡人及ヒ振出人ハ之ヲ自己ノ
利ニ用ユルノ權ナク此理由ヨリシテ獨國為
替法第六十二條ハ其豫備支拂人ニ於テモ支
拂ヲ拒ムト得ハキ（註）タリ然レモ豫備
支拂人ヲ立テタル者ノ誰ナルヤハ為替面ニ
就テ見ル可カラサルト多キノコナラス豫備
支拂即チ采譽引受ハ為替文面ノ一部ハ成
シ以テ此部ハヲシテ総關係人ニ對シテ効カ
アラシメサルノ充分ナル理由ナケレハ独逸

ノ主義其當ヲ得タリト謂フ可カラス故ニ佛
法ニ於テモ采譽支拂ヲ拒ムト抑モ許サ、ル
者トシ唯此ニ就テ民法上ノ原則ヲ適用セシ
ムルノ（コ）ラワール第三卷第四百五葉（是）
於テカ為替所持人ニシテ参加人ノ支拂ヲ拒
ミタル中ハ参加人ハ其為替金ヲ供託所ニ預
クルノ權利ヲ有シ（第七百五十八條）此カ為メ
ニ為替所持人ノ別ニ支拂ヲ要求スルノ權ハ
消滅スル者トス
隨意ノ参加人ニ就テハ其關係右ト異ニシテ
此参加人ノ氏名ハ為替面ニ存セサルヲ以テ
他ノ諸人ハ一モ之ト為替上ノ關係ヲ有セス

其参加ヤ全ク参加人ト所持人ト受承者其後
ノ裏書人トノ間ニ於ケル相對ノ關係ニ止マ
ルヲ以テ他ノ義務者ヲシテ其参加及自己ノ
利ニ用^レシムルノ理由ハ存セサルナリ今ヤ
所持人ハ唯支拂ヲ望ムモノニシテ其支拂フ
者ノ誰タルヤニ關係ヲ有セサルカ故ニ承者
支拂ヲ拒ミテ何ノ利益アルヤト疑問アル可
シ然レ氏商業交通ノ隠秘ナル此利益ナシト
ス可カラス例之ハ他ノ人ニ對シテ償還要求
ヲ為シ或ハ参加人ヲシテ其参加ノ利益ヲ得
セシメサラントノ姦計ヲ以テ承者支拂ヲ拒
ムト有リ又其参加元來姦計ニ出テ以テ其受

交通^ノカ

承者或ハ其以前ノ裏書人ノ一ニシテ所持
人ノ償還要求ヲ為スヲ欲セサル者ニ對シテ
償還要求ヲ為サント欲スルニ出^ツルト有ラン
歟所持人若シ之ヲ知り其受承者ノ破産ヲ
恐ル、片ハ其参加ヲ拒ムト許サ、ルノ理
由ナシ其他所持人ハ償還者ヲ待ツニ寛恕ヲ
以テシ其交接ヲ密ニセントスル等ノ利益亦
無^レトセサルナリ故ニ本案ニ於テハ右様ノ
場合ニ於テ承者支拂ヲ拒ムト許ス然レ氏
其参加人ヲ全ク無効ト為サ、ルナリ抑モ本
條ノ参加ハ之ヲ幾カ代用ノ為替振出ト見
做^レル^ル其参加人ヲ以テ支拂人ト爲シ受承者

者ヲ以テ振出人ト爲シ此人ノ間ニ於テ
加ノ効力ハ即チ所持人カ支拂ヲ拒ム片ハ假
ニ振出人ト爲シタル受采譽者及ヒ其後ノ裏
書人ニ對シテ其權利ヲ失フニ在リ蓋シ受采
譽者ハ参加ノ爲メニ唯爲替所持人ノ要求ヲ
免カレ参加人ノ要求ハ之ヲ免カルニ非ス
ト雖モ此要求ハ受采譽者ノ爲メニ煩悶少ナ
ク又然ラサルモ所持人ノ要求ニ對シテ左ノ
言ヲ爲ス「予得ン曰ク汝ハ既ニ予ノ爲メニセ
ル支拂ヲ受ク可カリシニ非ヌスヤ若シ之ヲ
受ケタラシニハ予ニ對スルノ要求權ヲ失フ
タルニ非ヌスヤ其支拂ヲ拒ミタルノ罪ハ予

ニ在ラスレテ汝ニ在リ故ニ亦予ニ對シテ更
ニ要求ヲ爲スノ理アラシキト此辭ヤ固ヨリ
其當ヲ得タリ況ヤ實際煩悶生スルカ如ク其
参加ニシテ参加人ト受采譽者トノ約束ヨリ
出ル丁有ルニ於テラヤ由是觀之本采ニ用
タル折衷法ハ總關係人ノ利益及ヒ法理ニ適
スル最モ至レリト云ハシテ而シテ法國爲替法
第六十二條ニ右ノ場合ニ於テ所持人ハ唯受
采譽者ヨリ以後ノ裏書人ニ對シテ要求權ヲ
有シ其受采譽者ニ對シテ之ヲ有セストスル
ハ模倣ス可キ者ニ非ヌス

第八款 債還請求

第七百七十五條

支拂人カ満期日ニ為替手形ノ支拂ヲ為サ、ル
中ハ所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シ為
替金額及ヒ其利息并ニ不拂ニ因リテ生シタル
一切ノ費用ニ付キ債還請求權ヲ有ス

本章ハ支拂期日ニ於テ通常簡單ノ支拂ヲ為
サ、ル時為替所持人其為替權利ヲ維持スル
上ニ係ル規則ヲ掲ク夫レ為替所持人ハ為替
ニ署名シタル者即チ振出人及ヒ裏書讓渡人
ニ對シ債還要求ノ權利ヲ有ス故ニ為替權利
ノ嚴守タルハ當ニ引受人ニ對スルニ止マラ

總テ他ノ義務者ニ對シテモ亦然リトス況レ
ヤ是等ノ人皆為替支拂ニ付連帶ノ義務アル
ニ於テヲヤ(第八百九十條)本章ノ規則ハ概シ
テ左ノ三原則ニ基ク第一所持人ハ満期日ニ
於テ支拂ヲ要求セサル可カラス第二所持人
ハ支拂ナキ時ハ翌日ニ拒證書ヲ作ラサル可
カラス第三所持人ハ尙ホ一定ノ期限内ニ償
還義務者ニ對スル償還要求ヲ実行セサル可
カラス若シ此三原則(猶以下定ムル)詳細ノ法
式ヲ俟セテ履行セサル時ハ要求ヲ為ス能
ハス唯支拂人ノ引受ヲ得ハタル場合ニ限り
之ニ對シテ要求シ又ハ第七百十四條ニ基キ

非理ノ利ヲ占メタルノ訴訟ヲ起ス下ヲ得ヘ
キノミ

本條ハ既ニ第七百六十七條ニ於テ一般及ヒ
他ノ關係ニ隨ヒ定メタル所持人ノ償還要求
權ヲ詳細ニ定メタルモノニシテ参加人ノ采
譽支拂ハ既ニ前章ニ定メタルヲ以テ此ニ贅
セス蓋シ此采譽支拂ニ於テモ拒證書ヲ作ル
ニ非サレハ償還要求ヲ為ス能ハスト雖モ参
加人ノ干渉ノ為メニ其要求ヲ実行スヘキ人
ヲ異ニシ唯参加人ニシテ所持人ニ支拂ハサ
ル中ニ限り所持人自ラ其要求權ヲ実行スル
ヲ得ルノミ今ヤ此權ヲ実行スル者果シテ所

持ノ本人ナルヤ將タ其代人ナルヤ今其代人
ニ裏書讓渡(第七百三十條)ヲ為シタルト否ト
ハ同ノ所ニ非ラス故ニ裏書讓渡人ハ満期日
ニ於テ裏書讓渡ヲ為ス丁無ク支拂地ニ在ル
代人ニ其為替ヲ送致スル丁ヲ得ヘシ而シテ
此代人ハ特別ノ委任(通信電報等)ヲ以テ其代
人ノ資格ヲ證スルヲ得ルニ於テハ何レノ點
ニ就テモ制限ナク讓受人ニ代ルヲ得ヘク正
當ノ資格ヲ表スル代人ニ支拂ヲ拒ミタル時
ハ所持人ニ之ヲ拒ミタルト同一ノ結果ニ至
ル然レモ他ノ一方ニ於テハ代人亦タ所持人
ト同一ノ義務及ヒ法式ヲ盡シ以テ其所持人

ノ代ハリタル丁ヲ明言セサル可カラズ然ラ
サレハ其為ス所自己ノ名義ニ歸シ其氏名為
替面ニ見ヘサル片ハ無効トナル又拒證書ヲ
作り之ヲ通知シ及ヒ訴訟ヲ起シ其他裁判上
ノ手續ヲ為ス丁ニ就テモ代人ノ所持人ニ代
ハリ為シタルモノ充分ノ効カアリ而シテ償
還要求ハ為替金ノ其満期日ニ支拂トナラサ
リシカ為メノ辨償要求ニシテ即チ其為替金
延滞利子及ヒ不支拂ノ為メニ生シタル諸費
用ヲ包含スル丁第七百八十五條ニ記スルカ
如シ
為替所持人ハ只振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對

レテ償還要求権ヲ有スルニ止マラス候セラ
引受人其他ノ為替義務者ニ對シ其權利ヲ維
持スル為メニ裁判所ノ差押ヲ請求スルノ權
アリ以テ自己ノ要求ヲ実行スルノ便法ヲ有
ス此權利ニ付テハ後第七百八十七條ニ論ス
ル所ナリ

第七百七十六條

所持人ハ為替手形ヲ満期日ニ支拂ノ為メ呈示
ス可シ若シ支拂ヲ為サハル片ハ満期日ノ次ノ
業日ニ支拂拒證書ヲ作ル可シ

以下諸條ハ振出人及ヒ裏書人ニ對スル償還
要求ニ必要ナル手續ヲ特別ニ記載スルモノ
ニシテ先ツ本條ハ二様ノ規則ヲ設ク即チ一
ハ満期日ニ支拂人又ハ他所拂人ニ支拂ノ為
メ呈示スル丁ニ係リ一ハ支拂拒證書ヲ作ル
丁即チ尚下ニ細定スヘキ法式上ノ處置ヲ以
テ支拂ノ拒絶ヲ公證スル丁是ナリ拒證書ハ
遲滞ナク満期日ノ翌日(休日ハ除ク)ニ之ヲ作

ラサル可カラス而シテ是豫備支拂人ニ對シ
テ作ル所ノ再拒證書ニ就テモ亦然リ(商法雜
誌第二十三冊第二百零七十一葉「トヨール」商法
第三十一葉及ヒ本法第八百三十條)此ノ如ク
盟國ヲ以テスルハ全滿期四内ニ支拂ヲ為ス
ノ餘裕ヲ與ヘンカ為メナリ然レモ其呈示ハ
午前ニ於テスルモ再度又ハ數回之ヲ為スヲ
須ヒス(佛國商法第二百零一條和蘭商法第七十
九條第百八十條伊國商法第二百零四十七條第
二百四十八條)滿期四ノ翌四ヲ以テ拒證書ヲ
作ルノ四トナスハ各國法律概不然リ唯獨國

法律ハ然ラズ滿期四ノ翌々四マテ之ヲ許ス
此ノ如ク拒證書ヲ作ルノ期限ヲ延長スルハ
為替負債ノ嚴平タル性質ニ適當セサルニ似
タリ而シテ為替ノ不支拂ヲ成ルヘク速ニ聞
知スルハ償還義務者ノ利益ト視ルヘキヤ明
カナリ
今ヤ支拂人ニシテ振出入ノ指定シタル滿期
四ニ非サル四ニ支拂ヲ可キ引受ヲ為シタリ
シモ呈示ヲ為シ及ヒ拒證書ヲ作ル「ハ」第七
百三十八條ニ隨ヒ滿期四ニ於テセサル可カ
ラス何トナレハ滿期四ニ非サル四ヲ以テ支
拂四ト為スノ約束ハ唯支拂人ト為替所持人

トノ間ニ効用アリ振出人ハ之ニ束縛セラル
、トナシ况ンヤ所持人ハ満期ニ非サル可
ニ引受ヲ受ルトヲ拒ムノ權アルニ於テヤ
若シ戦争或ハ天災ノ如キ抗拒スヘカラサル
威力ノ為メニ(但シ偶烈変革ハ此限ニ非ラス)
為替ヲ呈示シ或ハ拒證書ヲ作ルノ時ヲ失フ
タル中ハ其故障ノ止シタル後直チニ呈示ス
ルニ於テハ所持人其罪過ヲ免カルヲ得ルト
各國法律ニ於テ多ク然リ(ブラワール第三冊
第四百二十葉)獨國法律學(トヨール氏ノ為替
法第一百一條)ニ於テハ或ハ反對ノ説ヲ唱フル
者アリト雖モ抗拒スヘカラサル故障ヲ酌量

スルハ正理ノ然ラシムル所ニシテ又實際ニ
於テ行フ所ナリ然レ氏是個々ノ場合ニ係ル
裁判所ノ判決ニ任スル所ニシテ戦争内乱等
ノ久シク鎮定セサル時ニ方リ法律ヲ以テ細
定スルハ便宜ニ稱フモノニシテ且通例行フ
所ナリ例ヘハ千八百七十年八月十三日ノ佛
國法律ノ如キ是ナリ(商法雜誌第十六冊第四
百十三葉及ヒ第十七冊第二百九十四葉)

第七百七十七條

支拂拒證書ハ既ニ引受拒證書ヲ作りタル片ニ
モ債務者カ死亡シ又ハ破産宣告ヲ受ケ又ハ其
所在ノ知レサル片ニモ之ヲ作ル可シ

本條ハ償還義務者ニ對スル法式上ノ不支拂
證據タル拒證書ノ性質ヨリ生スル所ニシテ
此拒證書ニ代ユルニ他ノ事實ヲ以テスヘカ
ラス佛國高法第百六十三條ニモ同一ノ規則
アリ今ヤ支拂人ノ住所不分明ナル時ハ第七
百九十二條ニ基キ拒證書ヲ作ルヘシ又支拂
人ノ住居分明ナル此ニ在ラサル片ハ其住居
ニ於テ之ヲ作ル可シ佛國高法第百七十三條

獨國為替條例第九十一條

若シ支拂人死亡シタル時ハ其住居又ハ店舗
ニ於テ拒證書ヲ作ルヘシト雖モ其相續人或
ハ其他代人權利相續人之ニ立會ヒ供述ヲ為
ス下ヲ得ヘシ又破産ノ場合ニ於テモ之ニ同
シク破産管財人其名代ヲ為ス可キナリ(アラ
ワール第三冊第四百二十三條第四百二十四
葉千八百七十一年四月二十一及ヒ千八百
七十八年五月廿五及ノ獨國裁判所判決ハシ
ユ第三十九葉註四及第二十二葉註八)然レ氏
破産管財人ハ為替ヲ支拂フ下ヲ得ス何トナ
レハ為替債主ト雖モ破産財團ノ割前ノ外受

ルノ權ナケレハナリ又拒證書ヲ作ルノ必要
ハ破産宣告ノ為メニ消滅スルニ非ス何トナ
レハ兼譽支拂人ノ参加等ノ如キ他ノ為替權
ノ生スルハ右ノ法式ニ基カサルヲ得サレハ
ナリ

第七百七十八條

引受人ニ對シテ為替權利ヲ保全スルニハ滿期
日ニ於ケル呈示及ヒ拒證書ノ作成ヲ要セス然
レ氏他所拂為替手形ハ他所拂人若シ他所拂人
ノ記載ナキ片ハ支拂人ニ其為替手形ヲ支拂フ
可キ地ニ於テ支拂ノ為メ之ヲ呈示ス可シ若シ
支拂ヲ為サ、ル片ハ同地ニ於テ拒證書ヲ作ル
可シ

振出人及ヒ裏書讓渡人ノ償還負債ハ已ムヲ
得サルニ備フルモノニシテ債主ノ罪ニ非ラ
スシテ本負債ヲ正當ノ期日ニ支拂ハサル片
ニ始テ生スルモノト又以テ此債主ノ罪ナキ

ヲ澄スル為メニハ第七百七十六條等ニ掲ケ
タル拒澄書及ヒ其通知ニ関スル規則ヲ守ラ
サ可カラズ故ニ此規則ハ償還義務者ノ利益
ヲ本トスルモノニシテ若シ之ヲ犯ス時ハ此
義務者ニ對シ償還要求權ヲ失フ其引受人ニ
對シテハ其關係右ト異ニシテ引受人ノ為替
上ノ義務ハ本幹ノ義務ニシテ其要スル所ハ
引受人ノ(第七百三十三條)本條ノ第一段ハ債
主縱令ヒ満期日ニ要求ヲ為サ、ルモ其權利
ヲ失フトナシトノ普通例規ニ基クモノニシ
テ償還義務者ニ對スル本章ノ規則ヲ引受人
ニ及ホサ、ラシメンカ為メニ之ヲ明掲スル

ハ便宜ニ出フ(獨國為替條例第四十四條佛國
高法第二百一十一條)アラワ、ル第三卷第四百
七十條)故ニ引受人ニ對スル為替上ノ權利ハ
時効即チ三年ノ經過ヲ以テ初メテ消滅ス(第
七百十二條)今ヤ為替所持人ハ引受人ニ對ス
ル權利ハ勿論第七百八十七條ニ依ル假差押
ノ權ヲ施行スルニ直ニ満期日ニ於テスル丁
ヲ得以テ振出人及ヒ裏書人ニ對スル要求ノ
成否ヲ竣ツヲ須ヒサルヤ明カナリ
但シ右ノ例規ニハ一箇ノ例外アリ他所拂為
替ノ場合即チ支拂人ノ住地ト異ナル支拂地
ヲ指定シタル片是ナリ此場合ニ於テハ別ニ

他所拂人即チ支拂人ニ非ラスシテ為替ヲ支拂テ可キ人ヲ指定スル丁徃々ナリ然レ氏受必スシモ他所拂為替ノ意義ニ欠ク可カラサルモノニ非ラス今ヤ斯ノ如キ為替ハ満期日ニ於テ他所拂人又ハ特別ニ定メタル地ニ於テ支拂人ニ之ヲ呈示シ拒證書ヲ作ル可シ若シ然ラサレハ振出人及ヒ裏書人ニ對スル為替上ノ權利ヲ失フニ止マラス引受人ニ對シテモ亦之ヲ失フ獨國為替條例第四十三條第四十四條佛國商法第百二十三條第百七十三條ブラワール第三冊第百七十一條註第一今ヤ為替ヲ他所拂ニスル片ハ本負債者ナル

者二人ニ分ル引受ヲ以テ支拂ヲ約シ又ハ支拂ノ世話ヲ約シタル者ト其支拂ヲ為ス者ト是ナリ又假令ヒ別段ニ他所拂人ヲ定メサルモ支拂人ハ其支拂地ノ同シカラサルカ為メニ支拂ニ係リテ義務アル丁引受ニ係リ然ルモノト異ニシテ其引受ハ殆ント第二ノ振出トナリ以テ他ノ地ニ於テ支拂ヲ可キモノヲ指定シ或ハ他ノ地ニ於テ自カラ其支拂ノ義務ヲ負擔ス此點ヨリ論スレハ支拂人ハ他所拂人及ヒ其支拂ニ就テ償還義務者ノ地位ニ立ツモノニシテ是即チ此場合ニ於テ支拂人ヲシテ已ヲ得サル時ノ義務ヲ負ハシムルニ

ハ為メニ普通ト同一ノ手續ヲ踐マサル可カラサル所以ナリ
特別ニ他所拂人ヲ定メス以テ引受人自カラ
他所拂人ノ地位ニ立ツ片ハ拒證書ヲ作ル
必要ナラサルニ似タリ何トナレハ拒證書ハ
他人ニ對シ法式上ノ證據ヲ得セシムルヲ目的
トスルモノナレハナリ獨國法律學ハ此點
ニ就テ爭論アリト雖モ概子右ノ如キ主義ヲ
執ルニ似タリ(ホルシヤルト氏註執第四百二
十第ニ百六十八葉トヨール為替法第百六十
三條註第十四以下)然レ氏拒證書ハ自己ニ對
シテ之ヲ作ルトアリ例ハハ為替所持人ニシ

テ候ヒテ他所拂人ト為リ又ハ他所拂人ニシ
テ自分指名為替ノ振出入タルトアルカ如シ
且拒證書ハ為替負債ノ不支拂ニ係ル普通ノ
公證法ニシテ個々ノ場合ニ於テ例外ヲ立ル
ト能ハス況ンヤ右ニ例言シタル場合ニ於テ
モ實際人ヲ異ニスルトナシトセサルニ於テ
オヤ例令ハハ支店ノ管理者或ハ代務人ニ於
ケルカ如キ是ナリ故ニ本條第二段ノ規則ハ
他所拂人ヲ指定シタルト否トヲ問ハス總テ
他所拂為替ニ之ヲ適用シ支拂地ニ於テ呈示
シ又拒證書ヲ作ルヘシ今ヤ振出人及ヒ裏書
人ニ對スル為替權利ヲ維持スル為メニハ普通

通例規ニ隨ヒ呈示ヲ為シ拒證書ヲ作ルヘキ
ト論ヲ俟タサルナリ

然レ氏引受人ハ他所拂為替ニ就テモ既ニ其
引受ヲ以テ義務ヲ負擔シタルモノナレハ之
ニ對シテ第七百八十一條ニ後ヒ拒證書ヲ通
知スルヲ須ヒス即チ之レ微ケレハ要求權ヲ
生スルトナキ真個ノ償還要求ノ場合ト異ナ
リ夫レ本條ノ規定ハ唯引受人ニ對スル為替
權利ノ保存ヲ論スルモノニシテ獨國法律學
モ其發生ニ關セス千八百七十四年九月十六
日ノ判決亦タ此主義ヲ執ル(バシユ氏第二十
三葉註四)

英國ニ於テモ他ノ場所ニテ支拂フ可キ時ニ
ハ其地ニ於テ呈示スヘキヲ例トシ但拒證書
ハ外國ノ為替ニ非サレハ之ヲ作ルトテ要セ
ス(スミス、メルカント、ロー、第二百三十七葉ケ
ント氏ノ説明書第三冊第九十九葉)

第七百七十九條

引受人カ破産宣告ヲ受ケ其他資力ノ確カナラ
サルニ至リタル場合ニ於テ為替支拂ノ為メ十
分ナル擔保ヲ供セサル中ハ所持人ハ満期日前
ニ支拂拒證書ヲ作りテ償還請求ヲ為ス丁ヲ得
通常ノ支拂拒證書ハ必ズ満期日ニ於テ之ヲ
作ル丁ヲ得何トナレハ其期日前ニハ支拂ヲ
請求スルヲ得サレハナリ若夫支拂人ノ支拂
資力ノ確カナラサルニ至リタルカ為メニ又
ル所ノ警備拒證書ナルモノハ之ト異ナリ此
ニ法律上ノ意ニ於テ確カナラサルト稱スル
ハ豫メ期ス可キ支拂無能カヲ云フ獨國為替

條例第二十九條第二項ニハ確カナラサルニ
付キ主要タルモノヲ掲ク即チ差押ノ利益ナ
キ片或ハ負債拘留ニ處セラレタル片是ナリ
然レ氏此場合ノシニ限ルハ其當ヲ得ス例令
ハハ破産ノ為メニ逃亡シ負債者自カラ支拂
ノカナキトヲ述ヘ又ハ其身ヲ濬ムル等ノ如
キ他ノ場合ナシトセス佛國商法第百六十三
條ニ於テハ破産ノ場合ニ限リ警備拒證書ヲ
作ルトヲ許ス是固ヨリ常例タルヲ失ナハス
ト雖モ其權宜ヲ得サルヤ明カナリトヨール
為替法第百六條レノウ、為替法第三十九條註
二十七夫レ拒證書ノ目的タルヤ保證ヲ要求

シテ之ヲ得サリシトヲ公證スルニ在リ而シ
テ此場合ニ於テハ滿期ニ於テ其支拂期ス
ハカラサルカ故ニ既ニ作リタル警備拒證書
ハ償還要求ノ為メニ充分タリ以テ再ヒ支拂
拒證書ヲ作ルヲ要セス故ニ既ニ滿期目前ニ
償還要求ヲ為ストヲ得佛國商法第百六十三
條ハ即チ此ノ如シ獨國為替條例第二十九條
ハ第七百三十九條ノ不引受ノ場合ニ於ルカ
如ク唯擔保ヲ要求スルヲ許ス今不引受ノ場
合ニ於テハ未タ支拂ノ道塞カルニ非スト雖
モ支拂不確ニシテ既ニ發生シタル片ハ其支
拂ヤ抑モ期スハカラス是レ本業ノ異ナル所

以ナリ
此拒證書ハ唯引受人ニ對シテ之ヲ作ル丁ヲ
許ス何トナレハ引受ナケレハ支拂人ノ義務
ナク以テ之ニ對シテ擔保ヲ要求スルヲ得サ
レハナリ(佛國商法第百六十三條獨國為替條
例第二十九條)

第七百八十條

所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ノ各員又ハ總
負ニ對シ價還請求ヲ為ス丁ヲ得又價還請求ヲ
受ケタル裏書讓渡人ハ其前者ニ對シテ同一ノ
推利ヲ有ス

本條ハ為替義務ノ連帶タル性質ヨリ生スル
モノニシテ義務者ノ一人支拂ヲ為ス片ハ他
ノ義務者皆其責ヲ免カル(佛國商法第百六十
四條獨國為替條例第四十九條)價還要求ニ於
テハ裏書ノ順序ヲ守ルノ義務ナシト雖モ價
還訴訟ハ唯第七百八十一條ニ依リ拒證書ノ
通知ヲ受ケタル者ヲ相手トシテ之ヲ起スヲ

得ルノミ

第七百八十一條

償還請求ヲ為ス者ハ第七百三十九條ノ規定ニ依リテ引受拒證書作成ノ通知ヲ為シタルニ拘ハラス尚ホ其償還請求ヲ為サント欲スル前者ニ書面ヲ以テ其請求及ヒ支拂拒證書作成ノ通知ヲ為ス下ヲ要ス其通知ハ所持人ニ在テハ拒證書ヲ作りタル日ノ翌日、裏書讓渡人ニ在テハ通知書ヲ受取りタル日ノ翌日之ヲ為ス可シ但裏書讓渡人ノ通知ハ其後者ノ為メニモ効力アリ

償還要求推ハ支拂ヲ為サ、ル中若クハ拒證書ヲ作りタル時ニ起ルニ非スレテ速ニ明言

ヲ以テ其要求ヲ為シタル片ニ生スルモノト
スルト各國法律多クハ然リ是ハ償還義務
者ハ概子為替ノ成行ヲ識ルト能ハサルカ為
メ其成行ニ就テ特別ノ通知ヲ竣タサルヲ得
ス一ハ償還義務者ニ於テ其安全ヲ得ルニ必
要ナル處置ヲ為サン為メニ可及的速ニ右ノ
通知ヲ受ルヲ利益トスルニ出ル所ナリ今此
關係ヤ甚タ重大ニシテ著ク^トノチフヒカチヨ
シ(即チ償還要求ノ通知)ノ有無ヲ以テ償還要
求ノ生否ヲ論スルニ至リタリ殊ニ英國及ヒ
佛國ノ法律ニ於テモ然リ(スミ、メルカント、
ロノ

二百四十四葉及ヒ二百四十九葉佛

國商法第百六十五條乃至第百六十七葉本業
ハ拒證書ヲ作りタル日ノ翌日其要求ヲ為サ
ント欲スル人ニ通知スヘシトスル簡單自然
ノ英法ニ倣フタリ今ヤ償還要求權ハ此通知
ヲ以テ起リ若シ償還ヲ得サル中ハ三ヶ年ノ
通常時効期限内ニ訴訟ヲ起ス^トヲ得(第七百
十二條従前ノ佛國法律ニ於テモ之ニ同シク
千六百七十三年ノ布告第五編第十三章フラ
ワール第百三冊第百四十一葉註三其通知ヲ
以テ償還要求ヲ施行スルノ手續ト見做セリ
然レ氏佛國商法第百六十五條及ヒ伊國商法
第二百五十一條ニハ拒證書ノ日附ヨリ二週

内又ハ其距離ニ隨ヒ之ヨリ長キ期間内ニ償還要求ノ訴訟ヲ為サレハ其通知無効タルヲ定メタリ此ノ如ク場所ノ遠近ニ隨テ時効ノ期限ヲ異ニスルハ其宜ニ非ス何トナレハ是機巧ニ過キルノミナラス容易ニ償還要求權ヲ失ナフニ至ラシムルモノナレハナリ加之權利ノ起生ト時効ノ為メニ同一ノ期限ヲ定ムルハ法理ニ稱ハサルニ似タリ故ニ訴訟ヲ起スルヲ以テ償還要求ヲ施行スルノ初期ト視ルヘカラス以テ右ノ規則ハ千六百七十三年ノ布告ノ文語ニ拘泥シタルノ解釋ト謂ハサルヲ得ス獨國(獨國為替條例第四十一條

第四十五條)及ヒ蘭國(蘭國商法第四百八十四條第百八十五條)ノ法律ニ從ヘハ要求ノ通知ハ要求權起生ノ為メニ必要トセス然レ氏逐次ニ其前人ニ溯ホリテ通知スルノ義務アルトヲ定メ要求者ノ隨意ヲ以テスルトヲ許サス若シ此義務ヲ犯シタルハ附屬要求權(即チ利子及費用ニ係ル)ヲ失フノミナラス之ヨリ生スル損害ヲ償フノ義務アラシム此規則亦採用スヘカラス何トナレハ之ニ依ルルハ通知ヲ受ケサル者或ハ之ヲ受クル前早ク既ニ要求ヲ受ケルカ如キトアレハナリ例ハハ為替所持人ニシテ最後ノ裏書人ニ通知シ同

時ニ振出入ヲ相手トシテ償還ノ訴ヲ起スカ
如キ是ナリ又要求權ヲ失ナハシムルヲ以
テ唯其損害賠償ノ義務(是損害ヲ證明スルノ
困難ナルカ為メニ實用ヲ失フテアレハナリ)
アラシメ及ヒ附屬要求權(深キ理由ノ存スル
トナケレハナリ)ヲ失ナハシムルニ比スレハ
為替法ノ嚴格ニ適スト謂フハシ是故ニ本案
ハ簡單ニシテ且自然ニ適スル英法ニ倣フタ
リ佛法ハ此外要求期限ヲ確定スルノ難キ危
慮アリ且千八百一十二年ノ法律ヲ以テ右ノ
期限ヲ改正シテ其一半ニ之ヲ減シタリ而シ
テ此改正ヤ交通具ノ進歩ト共ニ頻々起ラサ

ルヲ得サルハシ

通知ノ期限亦英法ニ基キ之ヲ一四ト定メタ
リ何トナレハ是通知ノ手續ヲ為スニ充分ノ
餘暇アルノミナラス之ヲ長クスルハ却テ弊
害ヲ生スレハナリ故ニ為替所持人ハ拒證書
ヲ作リタル日ノ翌日其他裏書人ハ其通知ヲ
受ケタル日ノ翌日ニ通知スヘシ其遠地ニ在
ル者ニハ郵便ヲ以テ通知シ異議ヲ生シタル
片ハ郵便請取書ヲ示シテ其證據ト為スヘシ
日曜日及ヒ休日ハ縱令ヒ郵便局ヲ閉鎖セサ
ルモ之ヲ算入セズ
但シ通知ノ義務ヲ輕クシ且其費用ヲ減セン

為メニ英法ニ倣ヒ(スミス、メルカント、ロイ第
二百四十五葉、ブラワール第三冊第四百五十
葉)前裏書人ノ通知ハ以テ總テ後裏書人ニ効
用アルトヲ定メタリ例之ハ為替所持人ニ
シテ假令ヒ自カラ振出人ニ通知ヲ為サズ裏
書人ヨリ通知シタルモ振出人ニ對シ要求ヲ
為ストヲ得ルカ如キ是ナリ今其理由タル某
人ノ為シタル處置ハ同事件ニ就テ義務アル
他人ニモ効用アリ若シ然ラサレハ其受取リ
タル償還金ヲ償還要求ノ順序ヲ履ミ再ヒ自
己以後ノ裏書人ニ交付スルカ如キト生スレ
ハナリ

右ノ通知ハ私報又ハ隨意ノモノタル可カラ
ズ特別ノ法式ニ據リ公證ヲ經サル可カラズ
是該為替ノ文言相違ナキト時ヲ失ナハス呈
示シ拒證書ヲ作りタルト及ヒ支拂ヲ實ニ受
ケサリシトヲ明了スル所ノ拒證書ノ謄本ヲ
右通知ニ添フヘキノ規則アル所以ナリ今此
法式上ノ公認ハ獨リ所持人ノ通知ヲ以テ補
ナフヘカラサルナリ

第七百八十二條

前者ニ對シテ償還請求ヲ為シタルモ此カ為メ
ニ其後者ハ償還義務ヲ免カレヌ

本條ニハ順次要求ノ反對タル跳越要求(ワリ
トチヨシスレヒトトモ云フ)ノ原則ヲ確定シ
タルモノニシテ是獨國英國及佛國ニ於テモ
是認スル所ナリ(獨國為替條例第四十九條ス
ニス、メルカント、ロ、第百二十四條佛國商
法第百六十四條、アラワール第三冊第四百五
十六葉)今此原則ヤ併セテ其跳越セラレタル
義務者其責ヲ免ル、トナサトノ意ヲ含有ス
ルモノニシテ本條ハ明文ヲ以テ之ヲ示シタ

リ何トナレハ舊法ニ依レハ多クハ反對ヲ定ムレハナリ(レ)ナウ氏ノ為替法第八十六條註四若夫跳越ノ為メニ以下ノ讓渡人ニ對スル要求權ヲ失スルニ於テハ其選擇ノ自由大ニ束縛セラル、ニ至ルト明ニシテ蓋シ之ヲ束縛スルニ深キ理由ヲ舉クルト難シ償還要求者ハ場所支拂能力等ノ事情ニ係リ急速便利ニ其金錢ヲ得ル為メニ此選擇ノ自由ヲ有セサルヲ得サルナリ而シテ裏書人ニ在テハ其以前ノ裏書人ニ對シ所持人ト同一ノ權利アルト第七百八十條ニ擬シテ勿論タリ

第七百八十三條

拒證書作成ノ義務免除ニ因リテ拒證書作成ノ權利及ヒ償還請求權ハ消滅セス然レ氏此場合ニ於テ其免除ヲ為シタル者ノ後者ニ在テハ其免除ヲ為シタル者ニ對シ謄本ヲ以テ為替手形ノ送付ヲ為スト同時ニ書面ニテ償還請求ノ通知ヲ為スヲ以テ足レリトス

本條ハ自己ノ權利ハ拋棄スルヲ得ルモ他人ノ權利ハ拋棄スルヲ得サルノ原則ニ基クモノニシテ拒證書免除ハ唯明言シタル者ノニ對シテ効力アリ獨リ此者ノ不利トナリ所持人ノ不利トナルハカラス(第七百六十七條

即チ償還義務者ハ法式上ノ拒證書ヲ作ルノ
利益ヲ所持人ニ奪フテ得ヌ唯自己ニ對シ
拒證書ヲ作ルノ義務ヲ免除スルヲ得ルノ
所持人ニシテ之ニ拘ハラヌ拒證書ヲ作ル
ハ之ヲ受容シ殊ニ拒證書費用ヲ拂ハサル
カラヌ若シ拒證書ヲ作ラサル時ハ唯要求ノ
通知ヲ以テ充公トシ其確明ナルヲ得ン為メ
ニ該為替ノ謄本ヲ添ユルヲ要ス到底償還義
務者ハ拒證書ニ公證シタル事實ノ證據ヲ抛
棄スルモノニシテ若シ之ニ異議ヲ唱ヘント
欲セハ却テ自カラ反對證據ヲ立テサルヘカ
ラス又拒證書ノ免除ヲ以テ時ヲ失ハヌ支拂

ノ為メニ呈示スルノ義務ヲ免セテ免除スル
モノニ非サルナリ而シテ拒證書免除ハ總テ
其免除シタル者ヨリ以後ノ裏書人ニ對シテ
効カアリ何トナレハ裏書人ハ該附約ヲ以テ
為替ヲ讓受ケタル者ナレハナリ例ハ振出
人ニシテ拒證書ヲ辭謝シタル時ハ總テ裏書
人ニ對シテ其効カアリ(獨國為替條例第四十
二條トヨリル氏ノ為替法第九十九條)佛國及
英國ニ於テモ同一ノ原則行ナハル(ブラワー
ル第三冊第七十八葉以下及第四百二十一葉
ストリ)氏英國為替法第二百十六條第二百
七十五條)然レ氏佛國ニ於ケル拒證書ノ免除

ハ一層無限ノ性質アリ以テ終テ為替義務者
ニ對シテ効カアリ拒證書費用ヲ要求スルノ
權利ナカラシム

拒證書ヲ作ルトテ免除スルニハ「無拒證書」又
ハ「無費用」ノ語或ハ其他了解シ易ク或ハ慣用
ノ方法ヲ用ユヘシ

第七百八十四條

償還請求ノ訴ハ償還請求權ヲ得タル者ヨリ償
還請求ヲ受ク可キ者ニ對シ時効期間中何時ニ
テモ之ヲ起ス可キ得

本條ハ第七百八十一條ノ説明ニ論述シタル
所ニシテ是固ヨリ時効ノ性質自カラ然ラシ
ムルモノナリト雖モ佛法ニ於ケル如ク直ニ
償還要求ノ訴ヲ為ス可キモノトスルカ如キ
ノ見解ヲ防ク為メニ茲ニ明言シタリ償還要
求權ハ其通知ヲ以テ起ル所ノ特別ノ時効期
限ヲ有スルモノニシテ總テ之ヲ三年トス佛
國及獨國ノ法律ノ如キハ即チ然ラス佛國商

法第百六十五條及千八百六十二年ノ法律獨
國為替條例第七十八條及第七十九條

第七百八十五條

償還請求權ハ支拂人カ為替資金ヲ受取リタリ
トノ抗辯ノ為メニ効力ヲ失フト無シ然レモ為
替資金ヲ供スルノ義務アル者ニ對シテハ其者
カ為替資金ヲ供セサリシトノ抗辯ヲ為スルヲ
得

振出人其他為替資金ノ義務者ハ當テ支拂人
其資金ヲ受領シ満期日ニ之ヲ支拂フトニ配
慮スルノ責アルニ止マラス候セテ此支拂ノ
保證人タリ支拂人ニシテ引受ヲ為シ且為替
資金ヲ受取リタルニ拘ハラヌ支拂ヲ拒ム片
ハ其責ニ任セサル可カラス此點ヨリ論スレ

ハ為替資金ノ危険ハ振出人其他資金義務者
ノ負擔スル所ニシテ為替所持人ノ知ル所ニ
非ラス佛國法律ニ於テハ為替所持人ハ為替
所持人ハ為替資金ノ所有者タリトノ原則行
ナハル是レ本來其當ヲ失フモノニ非スト雖
モ此ヨリシテ所持人其危険ヲ負擔シ償還義
務者其資金ヲ為レタル時ハ其義務ヲ免ルト
ノ結果ヲ生セシムルハ謬ナリ償還義務者ハ
本條ノ原則ニ依リ一回ハ資金一回ハ償還金
ト兩度支拂フノ域ニ至ルトナシトセス然レ
氏既ニ為替支拂ノ保證人タレハ此危険ヲ逃
ル、丁能ハサルナリ今ヤ右ノ如ク容易ニ生

スハキ謬誤ヲ防カン為メニ正當ノ原則ヲ直
示スルハ其宜ニ適ス何トナレハ此為替債事
ノ嚴乎タル安全ニ大關係ヲ有スレハナリ
本條第二段ハ反對ノ場合即チ償還要求者ニ
對シ為替資金ヲ欠クトノ故障ヲ申立ルトニ
係ル然レ氏此要求者ニシテ為替資金ノ義務
アル片ニ非サレハ其故障理由ナキモノトス
而シテ是振出人ノ支拂入ニ對スル片ハ自カ
ラ然ルモノニシテ明約アルヲ須タス裏書人
ハ特別ノ明約アル片ニ限り然リ例令ハ他人
ノ計算及ヒ委託ヲ以テ振出しタル為替ニ於
テ此他人後ニ該為替ノ所持人トナルトヲ得

或ハ初ヨリ受取人ノ地位ニ在ルヲ得ルカ如キ是ナリ此ノ如キ人ニシテ其約シタル為替資金ヲ支拂フトヲ為サ、ルニ於テハ償還要求ヲ為ス能ハス振出人ハ支拂人ニ對シテ常ニ償還要求權ヲ有スト雖モ其性質タルヤ右ト異ニシテ第八百十條ニ於テ論スルモノニシテ此要求權ニ對シ為替資金ヲ受取ラストノ故障ヲ申立ルハ本條ニ依ル(高法雜誌第三冊第二百零六十一葉以下)其為替資金ノ義務ニシテ他人ノ計算ヲ以テ負擔シタルモノナル中ハ其名義而已ノ義務者ニ對シ故障ヲ申立ルトヲ得ス若夫為替資金ノ義務者ト支拂

入トノ間ニ於テ為替備付ヲ要求スルノ權利ヲ起ス所ノ關係アリテ存スルハ必スシモ證明ヲ須タス何トナレハ振出人ハ固ヨリ此資金ノ義務アリ他人ハ明約ヲ以テ此義務ヲ引受ルトヲ得レハナリ

佛國商法第七十條ニ振出人ヲシテ為替資金ヲ為シタリトノ故障ヲ申立ルヲ得セシムルハ唯為替所持人ニシテ其怠慢ヨリ法律上ノ呈示及拒證書期限ヲ經過シタル場合ニ限り効カアリ(スラワール第三卷第四百五十葉以下)

第七百八十六條

償還請求ハ左ノ額ニ付キ之ヲ為スヲ得

第一 為替金額及ヒ満期日ヨリ起算シタル
年百分ノ七ノ利息

第二 拒證書ノ費用其他必要ナル立替金

第三 逆為替ヲ振出シタル片ハ其費用

償還要求ハ損害賠償ノ要求ニ非ラス唯慣用
ノ利子及ヒ直接ニ生シタル立替金ノ辦償ニ
止マル即チ此ニ算スルモノハ拒證書ノ費用
仲買人手教料、仲立人手教料、印紙料、郵便税等
ナリ逆為替ノ費用ニ至リテハ第八百條ニ細
掲ス佛國商法第百八十一條第百八十四條及

第百八十五條亦之ニ同シト雖モ為替金ノ利
子ト償還要求者ノ立替ユヘキ費用ノ利子ト
ヲ區別シ前者ハ滿期ヨリ算シ後者ハ普通
原則ニ從ヒ訴ヲ起シタルヨリ算ス獨國為
替條例第五十條及ヒ第五十一條ニ於テハ為
替金即チ償還金ノ三百分ノ一ヲ要求者ニ此
ノ平均概算損害賠償ト見做スモノニシテ
定期内ニ要求ノ通知ヲ為サ、ル牛ニ限リ例
外ヲ許ス(獨國為替條例第四十五條)
本案ニ於テ利子及ヒ實費立替ニ償還要求ヲ
限リハ英國ニテモ行ナハル(スミス、メルカン
ト、ロ一第百五十八葉)是レ為替負債ノ嚴乎

タル法式的ノ金債タル所ヨリ自カラ生スル
モノニシテ其本原タル權利ノ關係ヲ問ハス
以テ實際損害ヲ酌量スルノ道塞カルニ似タ
リ然レ氏為替債主ハ費用ノ辨償ヲ要スル
ヲ得ルカ為メニ通常ノ金圓債主ヨリモ一層
ノ保護ヲ與ヘラレタリ(本案第三百二十四條
伸國民法第十百五十三條及ヒフラーワール第
三卷第五百五葉)

第七百八十七條

償還請求權ヲ得タル者ハ償還義務者ニ對シ償
還金額ヲ限りトシテ其動産ノ假差押ヲ裁判所
ニ申立ツルトテ得然レ氏償還請求ノ訴ヲ十四
日內ニ起サ、ル片ハ其差押ハ無効ト為ル
所持有人ハ引受人ニ對シテ右同一ノ權利ヲ有ス
從前ノ法律ニ依レハ為替負債ノ嚴格ハ主ト
シテ支拂ヲ為サ、ル負債者ヲ拘留スルニ在
リ即チ其身體ヲ以テ財産ト同シク牽制執行
ノ具トナシタルナリ此負債拘留ハ輓近ノ立
法ヲ以テ殆ント同ク之ヲ廢シタリ十八百六
十七年六月廿二日ノ佛國法律(身體牽制ノ廢

止ニ係ル千八百六十八年五月廿九日ノ獨國
法律(負債拘留ノ廢止ニ係ル)千八百六十九年
八月九日ノ英國法律(負債ノ為メ拘留ヲ廢止
スルノ法律)即チ是ナリ然レ氏右ノ英法ニ於
テハ負債者支拂フトヲ得ルニ支拂ハサル片
ニ限り五十磅以下ノ小負債及ヒ其他特別ノ
事情アル場合ニ係リテ例外アリ(高法雜誌第
十七冊第三百七十八葉以下)
右拘留ノ廢止ハ唯負債裁判ノ執行ヲ安全ナ
ラシムル為メノ拘留ノミニ係ルモノニシテ
後日ノ裁判執行ヲシテ無益トナラシメサラ
シカ為メ殊ニ負債者逃亡ノ恐レアリ或ハ其

財産ヲ轉匿スルトヲ防カン為メノ拘留ニ関
セサルナリ此惡意アル負債者ニ對スル防禦
拘留ハ各國ノ法律ニ於テ舊ノ如ク行ナハル
(佛國商法第四百五十五條第四百五十六條千
八百三十八年五月十四日ノ同國法律アラワ
ル第百五冊第百十五葉以下千八百七十年九
月九日ノ英國法律即チ逃亡スル負債者ヲ拘
留スルトヲ得セシムル法律千八百七十七年
一月三十四日ノ獨國ノ訴訟法第七百九十八條
トヨリル為替法第二百三條)
殊ニ此拘留ハ負債者ヲシテ外國ニ在リ或ハ
隱匿シタル財産ヲ携出セシムルノ用アリ然

レ氏拘留ハ必スシモ獨リ為替法ニ屬スルニ
非ナルカ故ニ本業ニ於テハ一モ其規則ヲ定
ムルナリ

本條ノ如ク負債者ノ動産ナル所有物ヲ差押
スルノ規則ハ佛國商法第百七十二條ニモ之
ヲ掲ク(フラワール第三卷第四百十葉)千八百
七十七年ノ獨國訴訟法第七百九十七條及ヒ
第八百六條ニ於テモ一屬其意ヲ汎クシ之ヲ
定ム此差押權ハ裁判所ノ判決ニ關セス其所
管裁判所ニ必要ナル事實ヲ述ヘ證書ヲ差出
シ之ヲ請求スル時ハ既ニ足レリ逃亡ノ嫌疑
アル等ノ如キ事実上ノ理由ヲ證明スレハ此

ニ必要トセス然レ氏差押ヲ理由ナク長延シ
負債者ヲ害スルトナカラシメン為メニ十四
日以内ニ於テ必ス其訴訟ヲ起サ、ルハカラ
サルナリ

此差押ハ總テ償還義務者ニ對シテ之ヲ執行
スルトヲ得即チ振出人裏書人保證人ニ對シ
テ時ナ然リ又引受人(唯参加人ノ引受ニ止マ
ルモ)ニ對シテモ之ヲ為ストヲ得ヘシ唯他所
拂人又ハ引受ヲ為サ、ル豫備支拂人ニ對シ
テハ然ラズ何トナレハ何ノ場合ニ於テモ確
然明瞭ノ為替負債アル者ニ限レハナリ

第七百八十八條

償還義務者ハ為替手形拒證書及ヒ受取證ヲ記
シタル償還計算書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ
支拂ヲ為スノ義務ナシ

本條ハ獨國為替條例第五十四條ニ掲クル所
ニシテ償還金ノ支拂ヲ以テ一切ノ為替權利
償還義務者ニ歸シ其權利ヲ實行スルノ證書
時之ニ交付セサルヲ得スト云フニ出フ此場
合ニ於テ為替ニ受取ヲ記スルハ必要ニ非ス
別ニ受取ヲ記シタル償還計算書ヲ出フルヲ
以テ足レリトス

第七百八十九條

為替義務者ハ償還金額ノ支拂ト引換ニテ受取
證ヲ記シタル為替手形及ヒ支拂拒證書ノ交付
ヲ所持人ニ求ムルノ権利アリ

此規則ハ獨國為替條例第四十八條ニ掲ケラ
レテフケヒ會議錄第百八十三葉以下トヨール
為替法第百四十三條(且佛國法律ニ於テモ同
シク定ムル所)佛國民法第千二百三十六條第
千二百五十一條(高法第百五十九條)ニシテ為
替負債者既ニ支拂ノ連帶義務アレハ亦テ隨
テ支拂ノ連帶權利ナカルヘカラス又為替ヲ
速ニ支拂ニ至ラシメ或ハ他ノ負債者ニ對シ

償還要求權ヲ得ニ等ノ為ニ此ノ如キ權利
ヲ執行スルノ商業上ノ利益トスルノ點カラ
サルニ出ル所ナリ是ニ於テ為替負債者ハ其
所持人即チ償還要求者ノ要求ヲ待タズ隨意
ヲ以テ支拂ヲ申出ルトヲ得ヘシ此時ニ當テ
ハ償還要求ノ通知ヲ為シタルト否トヲ問ハ
ス其為替ニ拒證書ヲ添ヘ具申出人ニ交付セ
サル可ラス而シテ支拂ヲ為シタル者ハ其支
拂ニ依リ所持人ノ權利ヲ得ルト榮譽支拂ノ
場合ニ於ルカ如シ(佛國商法第百五十九條)
然リト雖モ此支拂ヲ為シタル負債者ハ自己
以後ノ裏書人ニ對シテ償還要求權ヲ有セス

獨リ自己以前ノ裏書人ニ對シテ之ヲ有スル
ト論ヲ俟タス但タ其所持人ノ為シタル要求
通知ハ候セテ自己ノ通知トナル今チ引受人
ハ為替負債者ニ屬ス故ニ初メ支拂ヲ拒ミタ
ルニ拘ハラズ右ノ權利アリ然レ氏引受人ハ
唯振出人ニ對シテ償還要求權アリ裏書人ニ
對シテハ然ラス何トナレハ裏書人ヨリ一モ
支拂ノ委託ヲ受ケタルトナケレハナリ(ブラ
ワール第三卷第四百九十葉)然レモ裏書人ハ
引受人ニ為替ノ支拂ヲ要求スルトヲ得ヘシ
為替所持人ニシテ為替ノ支拂ヲ受ルトヲ拒
ミタル中ハ假令ヒ其支拂申出人及其以後ノ

裏書人ニ對シ償還要求權ヲ失ナハサルモ(第
三四四條)其申出人ハ其為替金ヲ信託所ニ預
クルノ權アリ而シテ若シ損失ヲ生シタル時
ハ所持人ニ辨償要求ヲ為スルヲ得

第九款 拒證書作成

第七百九十條

拒證書ハ裁判所ノ役員又ハ公證人之ヲ作ルモ
ノトス若シ其地ニ此等ノ人ナキハ被拒者ニ
於テ證人二人ヲ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ但
其證人ハ成年ノ男子ニシテ成ル可ク商人タル
ヲ要ス

輒近ノ法律ニ拠レハ拒證書ヲ作ルニ證人ノ
立會ヲ要セサルトナレリ(獨逸為替條例第
八十七條千八百七十七年七月十日ノ白國法
律及千八百七十七年八月十三日全國布達高
法雜誌第二十三冊等而七十七條及第百八十

一葉レウ井氏萬國商法論第一卷第四百四十
葉佛國ニ於テモ千八百四十八年三月廿三日
ノ布告ヲ以テ商法第百七十三條ノ煩苛ナル
規則ヲ簡易ニナシ自今公證人又ハ裁判所執
行吏壹名ノ立會ヲ以テ足レリトナシ證人並
ニ公證人ヲ要セサルニ至レリ如何ナル裁判
所官吏此拒證書ヲ作ルヘキヤ必要ニ隨ヒ政
府ノ令ヲ以テ定ムヘキナリ前記ノ千八百七
十七年ノ白國布達並ニ千八百七十六年八月
廿一日ノ普國法律及ヒ高法雜誌第二十二冊
第二百四十二葉ヲ參觀スヘシ殊ニ此任ニ充
ル者ハ裁判所書記裁判所執行吏等凡ノ下等

ノ官吏ヲ可トス千八百七十六年七月十八日
ノ獨逸布達ニ依レハ高法雜誌第二十三卷附
錄第二十一葉卸便ヲ以テ裁判所官吏ニ依賴
スル丁ヲ得白國ノ如キハ卸便官吏躬カラ之
ヲ作ルヲ得高法雜誌第二十三冊附錄第百八
十一葉此法ハ危虞ヲ免レス何トナレハ卸便
官吏ハ必要ナル法律上ノ學識ト經驗トヲ有
セサレハナリ高法雜誌第二十四冊第三百七
葉

第七百九十一條

拒證書ハ拒者ノ營業場若シ營業場ナキ片ハ其
住居ノ内若クハ傍ニ於テ之ヲ作ル可シ但拒者
不在ナル片又ハ臨席ヲ肯セス若クハ未入ヲ拒
ム片ト雖モ亦同シ

獨國為替條例第九十一條ニ定ムル所亦本條
ニ類シ實地ノ需用ニ基クモノナリ佛國商法
第四百七十三條ニハ唯住地ニ於テスヘシト定
ム然レ氏之ヲ解釋シテ同一ノモノトシ(下ラ
ワ)ル氏第三冊第四百三十三條(葉)為替面ニ別
ニ場所ヲ掲ケタル時ハ此地ニ於テ之ヲ作リ
即チ相手方ヲ此地ニ於テ搜索ス獨國為替條

例ニハ雙方承諾ノ上ハ他ノ場所例之ハ相場
會所ニ於テ拒證書ヲ作り得ルノ規則アリ然
レ氏此手續ハ他人ノ利益ニモ関スルモノニ
シテ右ノ如クスレハ或ハ法式的ナルトト嚴
格ナルトトヲ賦ナフナシトセサルカ故ニ
本業ニ之ヲ採用セサルナリ若シ相手方不在
等ヲ以テ拒證書ヲ作ルトヲ妨ケントスルモ
仍之ヲ作り該證書ニ其事實並ニ署名等ヲ欠
クノ理由ヲ記スヘシ(佛國商法第百七十四條
其他佛國ニ於テハ仍訴訟法第六十八條ヲ此
ニ適用ス

第七百九十二條

拒者ノ營業場及ヒ住居ノ知レサル場合ニ於テ
支拂地ノ官署ニ問合ヲ為スモ尙ホ知ルトヲ得
サル片ハ拒證書ハ其官署内ニ於テ之ヲ作ルト
ヲ要ス

佛國商法第百七十三條ニ於テモ本文第七百
九十二條ト類似ノ規則アリ以テ地方官署ニ
依リテ探索スヘキトヲ揭ク(獨國為替條例第
九十一條)又拒證書ヲ作ルニハ他ノ地ニ於テ
スルノ權利ナク又其義務ナク設令相手方轉
移ノ往地分明ナルモ其地ニ行クヲ要セス何
トナレハ拒證書ヲ作ルヘキ成規ノ場所ハ支

拂地ニ限り以テ隨意ニ其場所ヲ變換シ得ヘ
キモノニ非サレハナリ支拂人偶然不在ニシ
テ其代人ヲ留メ置カサルトアルモ仍其拒證
書ヲ作ルノ妨害トナルトナシ

第七百九十三條

法律上定メタル場所ノ外ニ於テハ拒者ノ承諾
アルモ拒證書ヲ作ルト得ス

第七百九十四條

一般ノ休可ニハ拒證書ヲ作ル_レトヲ得ス然レ氏
通常ノ取引時間外ニ於テ之ヲ作ルハ妨ナシ
此規則ハ一般ノ原則ト習慣トニ應スルモノ
ニシテ(獨國為替條例第九十二條_トホルシヤル
ト註解第七百二十四スミス商法論第二百四
十二葉及第二百四十三葉)殊ニ拒證書ヲ作ル
ノ時間ニ就テ定ムルノ法律ナク又其時刻ヲ
證書中ニ記載スルヲ必要トスル_レトナシ然レ
氏常例ノ取引時間外ニ拒證書ヲ作ルハ特別
ノ事情アル中ニ限ルモノトノ説ヲ為ス_レトヲ
得_レハ何トナレハ商人ハ取引時間外ニ其

店舖ヲ閉テ退出スルノ常ナレハナリ千八百
五十年二月十五日ノ帝國法律ニ於テハ拒證
書ヲ作ルハ午前九時ヨリ午後六時マテニ限
リ其前後ニ於テスルニハ必ズ相手方ノ承諾
ヲ得サル可ラスト定ム(商法雜誌第二十三冊
第二百七十葉)又午後七時マテトシ或ハ八時
ニ涉ラシムルノ法律アリ(レナウ為替法第二
十八條註第十二)然レ氏為替條例中此事ニ関
スルノ規則ヲ見ス至當ノ説ニ依レハ一般ノ
休日ニ作りタル拒證書ハ無効ト視サルヲ得
ス何トナレハ之カ為メニ相手方勘考ノ時間
ヲ短縮セラレ且公然タル休日ヲ棄捨シテ為

メニ他人ニ害ヲ加フヘカラサレハナリ(ホル
シヤルト註解第七百五十一)

第七百九十五條

拒證書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルヲ要ス

第一 為替手形ノ全文但最後ノ裏書ニ至ルマ
テ遺漏ナク記載ス可シ

第二 拒者ノ臨席又ハ不在

第三 引受支拂又ハ擔保ノ要求及ヒ拒絶并ニ

拒絶ノ理由

第四 右要求及ヒ拒絶ノ可并ニ場所

第五 承替引受又ハ承替支拂アル片ハ其旨

第六 可附場所及ヒ臨席総員ノ署名捺印

若シ拒者カ署名捺印スルヲ欲セ又ハ署名
捺印スルヲ能ハサル片ハ其旨ヲ證書ニ明記ス

可シ

本條ノ規則ハ不支拂ノ為メニ拒證書ヲ作ル
ノ本タル為替ノ相違ナキト及ヒ之ニ關スル
重要ノ點ヲ確定スルヲ目的トス(佛國商法第
百七十四條獨國為替條例第八十八條)故ニ謬
語脫字ニシテ為替ノ相違ナキトニ疑ヲ生ズ
ルニ至ラサルモノハ拒證書ノ効力ニ害スル
トナシ拒證書相手方ノ在不在ニ就テ記スル
ニ必ス其本氏名ヲ掲ケサルヘカラス獨リ合
名會社又ハ株式會社等ノ屋號ヲ以テスヘカ
ラス故ニ代務人其他ノ代人モ必ス其本氏名
ヲ記載セサル可ラス現出席人ノ署名ハ他ノ

會議筆記ト同シク秩序上ヨリ論セテモ既ニ
欠クヘカラス然レモ拒絶等ノ為メニ明カニ
其署名ナキトヲ明記スル片ハ之ナキモ可ナ
リ此場合ニ於テハ公證人ノ承認ヲ以テ足レ
リトス獨國為替條例ニハ相手雙方ノ署名ヲ
為スヘキトヲ定メス而シテ是實ニ緊要少ナ
シ拒證書ヲ作ルノ本人ハ必スシモ在席ヲ要
セス何トナレハ公證人其他代人(第七百九十
條)ヲシテ代ハラシムルヲ得レハナリ又教多
ク為替ニ付一個ノ拒證書ヲ以テ足レリトシ
教多ク人ニ對シテ一個ノ為替ニ係ルモノ亦
同シ

第七百九十六條

第七百九十一條乃至第七百九十四條ノ規定ハ
引受又ハ支拂ノ為メニスル呈示為替手形數通
ノ要求其他本章ノ規定ニ從ヒ或人ノ方ニテ為
ス可キ行為ニモ之ヲ適用ス

獨國為替條例第九十一條ニ於テモ此ノ如ク
定ム終テ為替上ノ處置ハ法式上ノ手續ニシ
テ嚴密畫一ヲ緊要トス故ニ法律上ノ規則ヲ
以テ之ヲ確定セサル可カラス

第七百九十七條

第七百十條及第七百十一條ノ場合ニ於テハ
其情況ヲ拒證書ニ明示シ且成ル可ク詳細ニ為
替手形ノ旨趣ヲ記シテ為替手形ノ全文ニ代フ
第七百二十六條ニ拠レハ紛失等ノ為メ權利
者ノ手中ニ存セサル為替ト雖モ之ヲ呈示シ
及ヒ之ニ就テ拒證書ヲ作ルヲ得此場合ニ
於テハ為替現在セサルヲ以テ成ルタケ精細
ニ其文字ヲ記シ以テ全文ノ謄寫ニ代ヘ且何
ノ理由(即チ竊盜燒失等)アリ其全文ヲ謄寫ス
ル能ハサル歟ヲ拒證書ニ記セサル可カラズ

第七百九十八條

裁判所、役員又ハ公證人ハ其作りタル拒證書
ノ全文ヲ可々帳簿ニ記入シ且被拒者ノ求ニ因
リテ教通ニ之ヲ作ルノ義務アリ
拒證書作成ノ費用ハ被拒者之ヲ立替フルトシ
要ス

佛國高法第百七十六條及獨國為替條例第九
十條亦本條ニ同シ拒證書ハ之ヲ教通ニ作ル
ヘキト往々ナリ則チ教人ニ對シテ償還要求
ヲ為ス片ノ如キ是ナリ又拒證書ヲ紛失シタ
ル時等ノ如キモ然リ（下）アラワール第三冊第四
百三十九葉

第十款 逆為替手形

第七百九十九條

所持入ハ償還金額ニ付キ各償還義務者ニ對シテ逆為替手形ヲ振出スヲ得

逆為替ハ諸國法律ノ認可スル所ナリ(佛國商法第百七十七條ヨリ第八百八十六條ニ至ル獨國為替條例第五十三條和蘭商法第百八十七條ヨリ第百九十七條ニ至ル西國商法第五百四十九條ヨリ第五百十七條ニ至ル伊國商法第二百六十三條ヨリ第二百七十一條ニ至ル)リカレヒオ(英國ニ於テモ逆為替ヲ用ユルノ法アリ然レ氏之ヲ外國為替ニ係ルモノ)

ニ限ル(カ)ス高法論第二百五十一葉レウ井
萬國商法論第一卷第四百五十九葉)逆為替ノ
効用ハ支拂人満期可ニ於テ支拂ハサル時償
還義務者ニ宛テ、為替ヲ振出し支拂地ニ於
テ之ヲ銀行等ニ賣リ以テ即時ニ為替金及其
相當ノ利子及ヒ費用ヲ領得スルニ在リ此逆
為替ハ其支拂人トセラレタル償還義務者ノ
引受ヲ記セス之カ為メニ其支拂或ハ危慮ヲ
免カレスト雖氏引受ニ代リテ其本為替ニ支
拂人トセラレタル振出人或ハ裏書人ノ署名
ト之ニ附隨スル拒證書アリ以テ逆為替ノ支
拂義務ニ就テ一モ疑懼アルナシ且逆為替

ノ金高ハ法律ニ於テ之ヲ定メ以テ此點ヨリ
生スル紛議ヲ豫防ス加之逆為替ノ主義ハ為
替負債上ニ利益トスル所ノ嚴格ヲ增長シ以
テ多費ノ逆為替ヲ逃レン為メニ危慮ノ為替
ヲ振出若クハ引受クルナキニ至ル而シテ
逆為替ヲ使用スルノ害ハ一モ生スルノ憂ナ
シ何トナレハ費用ト相場差額トノ堆積シテ
償還義務者ノ為メニ非常ニ償還額ノ上等ニ
ハキ一危険ハ法律ノ制限ヲ以テ之ヲ豫防ス
ルナリ得レハナリ況ンヤ逆為替ハ頻々用フ
ル所ニ非ス主トシテ外國トノ為替交通上ニ
用ユルニ止マルヲヤ

逆為替ハ訴訟及通知ヲ以テスル償還ノ要求
ニ代ハルモノナリ然レ氏之カ為メニ償還要
求ハ贅事トナルニ非ス何トナレハ若シ逆為
替ニ支拂ヲ得サル時ハ本為替ノ所持人ハ唯
裁判上ノ償還要求ヲ為スノ道ヲ有スルノ
然レ氏第七百八十一條ニ從ヒ通知ヲ為サ
ル中ハ此要求權ヲ失ナフヘキカ故ニ逆為替
ヲ振出ス場合ニ於テモ時ヲ過タス通知スル
ト所要ナリ又時ヲ過タス呈示ヲ為シ及拒證
書ヲ作ルヲ以テ逆為替ノ効力上ニ必要トス
ルハ論ヲ俟タス且第八百一條ノ文ニ基キ推
知スヘキナリ

逆為替ノ支拂滞リタルカ為メ更ニ該為替ノ
債還義務者ニ逆為替ヲ振出シ此為替再ヒ支
拂ヲ得サルニ方リ又更ニ逆為替ヲ振出シ到
底窮極ナキニ至ルトナキニ非ス是危虞ヲ免
レサルヤ明ナリ故ニ或ハ法律ヲ以テ逆為替
ノ振出ヲ一回ニ限ルト(即チ本為替ニ係ル逆
為替ニ限り逆為替ニ係ル逆為替ヲ許サスヲ
定ムルヲ至當トスルトナシトセス然レ氏裏
書人ヨリ逐次振出人ニ及ヒ逆為替ノ堆積ス
ルハ禁スヘキニ非サルナリ(第八百二條)

第八百條

逆為替手形ノ費用ノ額ハ仲買人手数料、仲立人手数料、郵便税、印紙税及ヒ支拂地ヨリ償還義務者ノ住地ニ宛テ振出シタル一覽拂為替手形ノ相場ニ因リテ定マレ
右ノ相場ハ逆為替手形ヲ遞次振出ス場合ト雖モ本為替手形ノ支拂地ヨリ振出地ニ宛テタル一覽拂為替手形ノ相場ヲ超ユルトヲ得ス此二箇ノ相場ハ仲立人ノ認證ヲ受クルトヲ要ス
逆為替ハ特別ナル為替支拂ノ法式ヲ以テ償還金ノ支拂ヲ償還義務者ニ負擔セシムルノ作用ナリ故ニ逆為替ノ金額ハ償還額ヲ通算

セル額ニ超ユ可ラス何トナレハ支拂人ノ支拂ハサル為替金並ニ由テ生シタル利子及費用ヲ銀行其他々人ニ支拂ハシメ之カ為メニ右他人ニ支拂フヘキモノヲ逆為替ニ依リ償還義務者ニ償ハシムルモノナレハナリ而シテ此他人ハ即チ其逆為替金ノ支拂ヲ受クヘキヲ通例トス其方法ノ最モ簡單ナルハ他人ヲ受取人トシテ振出し若クハ他人ニ讓渡スニ在リ今ヤ拒證書ニ係ル普通ノ費用ノ外ニ特別ニ逆為替ノ費用アリ是佛國高法第百八十八條ニ細定スルカ如ク本案ニモ之ヲ掲ク仲買人若クハ仲立人手教料ヲ加フルトテ許

スハ通例他人就中相場會所仲立人又ハ取次人ノ手ヲ經テ為替ヲ賣却スルモノナレハナリ逆為替(丁シヤンジレエキスチハ)ノ相場ハ同一又ハ異種金銀貨ノ同一金額即チ本來同一ノ金銀積量ニヒテ其商業地ノ異同アルニ隨ヒ價值ノ異同ヲ生スルトアルニ起ル例之ハ横濱ノ百磅ハ倫敦ニテ百磅ノ價值ヲ有セス是現貨ヲ以テ横濱ヨリ倫敦ニ送致セシニハ運送費ヲ支拂ハサルヲ得サルニ因ル今ヤ現貨ノ送致ヲ避ケ務メテ為替ヲ以テ支拂ヒ且為替ハ通例商業上ノ支拂具タルカ故ニ各地貨幣ノ價值ハ其時ノ為替相場ニ準ス

ルニ至ル例之ハ百磅ニシテ横濱ニ於テ百三
磅ノ價アリ即チ倫動ニ向ケタル為替ニ於テ
百分三ノ相場増アリトセン欲横濱ニ在ル為
替所持人ニシテ唯百磅ノ逆為替ヲ振出スル
ハ其得ル所九十七磅ニ過キス故ニ実ニ百磅
ヲ得ンカ為メニハ百三磅ヲ以テ為替金トシ
之ニ利子ト他ノ費用トヲ加工或ハ百十磅ノ
金高ヲ以テ振出サ、ル可ラズ結局此百十磅
ノ金高ハ即チ償金額ニシテ其拒證書ノ本々
ル原為替ノ不支拂ヲ償ハシメシメニハ倫
動ノ振出人又ハ讓渡人ニ宛テ、右金額ノ逆
為替ヲ振出スルヲ得ヘシ

最後ノ償還義務者タル振出人ノ為メニ非常
ニ其償還額ノ騰昂スルヲ防止セシメカ為メニ
本業ニ於テモ二項ノ成規ヲ立テリ(第一)逆為
替ノ相場ハ唯実地行ナハル、所ノ相場ニ超
エヘカラス(第二)振出人ハ如何ナル場合ニ於
テモ逆為替振出ノ時支拂地ヨリ振出地ニ向
ケタル一覽拂為替ノ相場ヲ越エテ辨償スル
ノ義務ナキ事ナリ夫レ此兩相場ハ振出人保
護ノ為メ公認ヲ經セシム此公認ハ則チ逆為
替ヲ甲裏書人ニ振出シ甲ヨリ乙乙ヨリ丙ハ
各之ヲ振出シ終ニ振出人ニ宛テ、振出スル
ニ必要ナルモノニシテ總テ此教箇ノ逆為替

ノ相場差額償ハ前記ノ例ニ依レハ總高百分
ノ三ニ超ユルヲ許サス故ニ最後ノ逆為替
振出人ハ或ハ生スル所ノ相場ノ損失ヲ自カ
ラ負擔スヘク之ヲ振出人ニ歸スルヲ得ヌ
蓋シ本為替ノ責任ハ到底振出人ニ歸着スル
カ為メニ逆為替ハ直接ニ振出入ニ對シ振出
スヘキト自然ノ勢ナルトヲ思惟スル片ハ右
ノ規則ノ正當ナルニ似タリ

佛國商法第百七十八條及第百七十九條ノ不
明了ナル規則ハ上ノ意ヲ以テ解釋ヲ下セリ
然レ凡他ノ說ニ依レハ讓渡人ニ宛テ振出し
タル逆為替ノ相場ハ此讓渡人ヨリ所持人ニ

對シ充分ニ辨償シ讓渡人ハ讓渡地ヨリ逆為
替ノ支拂地ニ向ケテ振出しタル為替ノ相場
ヲ限トシテ相場差額ヲ加フルヲ得ルモノト
為ス例之ハ為替ヲ倫動ヨリ横濱ニ振出し巴
里ニテ裏書讓渡ヲ為シタリトセン歟本業ニ
採用シタル主義ニ依レハ横濱ニ於テ為替不
支拂トナリタル片ハ逆為替ヲ倫動ノ振出人
ニ向ケテ振出スモ巴里ノ裏書人ニ宛テ、振
出スモ必ス横濱ト倫動トノ間ニ於ケル相場
差額ノミヲ辨償額トシテ算入スルヲ得ヘ
シ若之ヲ右ニ記スル他說ニ依リテ論スル片
ハ其巴里ノ裏書人ニ向ケテ振出しタランニ

ハ橫濱ト巴里間ノ相場差額ヲ算入シ其讓渡
人ニシテ倫勳ノ振出人ニ對シ再ヒ逆為替ヲ
以テ辨償ヲ求ムルニ方テハ巴里ト倫勳間ノ
相場差額ヲ算入スルニ止マラサルヘカラサ
ルナリ今ヤ佛國商法第百七十九條ノ文字ニ
依レハ右第二說ノ法ニ近シト雖モ本案ニ執
ル所ノ主義ヲ以テ論理ニ適シ且簡明ナリト
謂フヘシ(フ)ラワール第三冊第五百二十一葉
以下蓋シ裏書人ハ滿期日ニ支拂ヲ受フヘキ
ニ之ヲ受ケサリシ所ノ為替所持人ト同一ナ
ル逆為替振出ノ利益ヲ有セサルヲ以テ獨立
ノ相場差額要償權ヲ之ニ與フルヲ得ス故ニ

其振出ヲ受ケタル逆為替ノ相場ニシテ未タ
定相場ノ最上限ニ滿タサリシ時ニ非サレハ
新タニ相場差額ヲ加算スルヲ得ス
佛國商法第百七十九條ノ規則ハ西國商法第
五百五十一條乃至五百五十五條和蘭商法第
百八十七條乃至第百九十二條伊國商法第
百六十四條第百六十五條ニモ之ヲ掲ク獨
國為替條例第五十條乃至五十三條ニハ相場
辨償ノ制限ヲ定メス以テ何レノ場合ニ於テ
モ支拂地即チ償還要求地ヨリ償還義務者ノ
住地ニ振出シタル一覽拂為替ノ相場ヲ以テ
算スヘキモノトス

第八百一條

逆為替手形ニ拒マレタル為替手形拒證書償還
計算書及ヒ前條ノ二箇ノ相場認證書ヲ添フ可
シ

本條ニ記載セル證書類ヲ逆為替ニ付スルハ
必要ナリ何トナレハ之ヲ以テ逆為替ノ正當
ナルヲ證シ且幾分カ逆支拂人ノ引受ニ代
ハレハナリ逆支拂人ニ於テ其逆為替ヲ支拂
フタル片ハ此證書類ヲ候セテ交付スヘシ佛
國商法第百八十條及百八十一條伊國商法第
二百六十六條及二百六十七條和蘭商法第百
九十一條及百九十二條獨國為替條例第五十

四條及西國商法第五百五十條(若こ逆支拂人
ニシテ逆為替ヲ支拂ハサル中ハ直ニ本為替
ニ就テ償還訴訟ヲ起スヲ得此償還要求權ヲ
得ンカ為メニ更ニ拒證書ヲ作り及之ヲ通知
スル丁ヲ要セス即チ本為替ニ就テ前ニ得タ
ル所ノ償還要求權ハ依然トシテ連續シ逆為
替ニシテ支拂ニ至ラサル時ハ直ニ之ヲ実行
スル丁ヲ得故ニ逆為替ノ所持人ハ償還要求
ヲ實施スルニ緊要ナル證書類ヲ候セテ握手
セサルハカラサルナリ

佛國商法第百八十二條西國商法第五百五十
四條和蘭商法第九十三條及伊國商法第二百

六十八條ニ於テハ為替ニレテ一個ナレハ償
還計算書亦一通ニ止マル可ク之ヲ甲裏書人
ヨリ乙裏書人ニ償ヒ終ニ振出人ヨリ之ヲ償
ナフヘシトノ規則アリ該規則ハ唯逆為替ノ
費用ニ関スルモノニレテ其意ハ本為替ノ所
持人ト其振出人トノ間ニ定ムヘキ計算ヲ償
ナフニ止マルト云フニ在リ而シテ之ヲ償ナ
フニハ或ハ直ニ振出人ヨリシ或ハ間接ニ裏
書人ヨリシ此裏書人ハ其支拂フタル費用ヲ
再ヒ其以前ヨリ裏書人或ハ振出人ヲシテ之
ヲ償ナカシム抑モ此規則ハ間接ノ人即裏書
人ノ逆為替ヲ振出スカ為メニ其費用ヲ増シ

之ヲ以テ其振出ヲ防クノ用アリ何トナレハ
逆為替ノ増費ハ裏書人自カラ負擔セサルハ
カラサルト多ケレハナリ

佛國ニ於テハ千八百四十八年三月廿四日ノ
布告ヲ以テ内國ノ逆為替ニ限リ相場辦償ノ
額ヲ畫一ニ定メタリ其外國及殖民地ノ為替
ニ至リテハ之ヲ高業習慣ニ任放ス

第八百二條

逆為替手形ヲ支拂ヒタル者ハ其前者中ノ一人
ニ宛テ更ニ逆為替手形ヲ振出ストヲ得

本條ハ裏書人ヲシテ為替所持人ト同シク其
支拂フタル償還金ノ辦償ヲ得センメンカ為
メニ自己以前ノ裏書人ヨリ振出人ニ至ルマ
テニ宛テ、逆為替ヲ振出ストヲ得セシムル
モノナリ(佛國商法第百七十八條獨國為替條
例第五十一條及五十三條)而シテ此裏書人ノ
權利ハ第八百條ニ從ヒ唯費用ノ加算ニ関シ
テ制限アリ其他ハ總テ為替所持人ニ異ナシ
トナシ

第十一款 資金

第八百三條

振出人又ハ自己ノ計算ニテ為替手形ヲ振出サ
シメタル者又ハ明示シテ為替資金ヲ供スルノ
義務ヲ負ヒタル裏書讓渡人ハ支拂人ニ對シテ
為替資金ヲ供スルノ義務ヲ負フ

為替資金トハ支拂人ヲシテ為替金ヲ為替所
持人ニ支拂ハシメシメテ或ハ其既ニ支拂フ
タルモノヲ償ハン為メニ支拂人ニ交付スル
所ノ金額ヲ称ス故ニ自然的簡單ノ方法ヲ以
テスレハ為替資金ト為替金トハ同一物ニシ
テ為替金ハ支拂人ノ媒久ヲ以テ振出人或ハ

他ノ為替資金義務者ヨリ之ヲ支拂フ然リト
雖モ其順序此ノ如ク簡單ナラサルト多ク支
拂人ノ為替金ヲ支拂フ大抵自己ノ資金ヲ
以テシテ為替資金ハ其支拂ノ前後ニ於テスル
支拂ノ辨償ニシテ為替資金ノ全額ハ流通ス
ル諸為替金ノ全額ヨリ少キノ事實ヲ理取上
ニ現ス何トナレハ銀行紙幣ニ於ルカ如ク為
替ニシテ支拂ノ為メ呈示ニ至ルモノハ一部
分ニ止マリ他ノ一部分ハ仍流通中ニ在ルヲ
常トスレハナリ為替資金ノ交付ノ必スシモ
為替金支拂ニ欠クヘカラサルモノニ非サル
ト及支拂人支拂ノ義務既ニ引受ニ原因シ為

替資金受領ノ有無ニ関セサルトノ法律上及
經濟上ニ緊要ナルハ右ノ理由アリテ然リ受
メ以テ支拂人ハ為替面ヨリシテ直接ニ獨立
ノ義務ヲ有シ敢テ振出人ノ受託者若クハ仲
買人取次人トシテ義務ヲ有スルニ非サルナ
リ

民法ヲ以テ論スル片ハ為替ノ振出ヲ以テ振
出人ノ支拂人ニ與フル囑託ト視テ支拂人ハ
普通ノ原則ニ因リ囑託施行ノ為メニ支拂フ
タル立替金ノ辨償ヲ要求スルノ權アリトエ
ル氏為替法第七十一條、フラワール第三冊第
八十六葉以下殊ニ他人ノ計算及囑託ヲ以テ

振出人為替ヲ振出ス片ハ委託ノ關係愈々明
ナリ又其囑託ニシテ受取人ニ出テタルニ於
テハ此關係ヤ一層煩雜ヲ加フ然レ氏為替ノ
法式ニ移リタル權利上ノ關係ハ唯囑託ノ關
係ヲ以テ盡セリトセス必スヤ為替法ノ獨立
原則ヲ以テ之ヲ判セサルヘカラス是為替資
金ニ係ル特別ノ規則ヲ要スル所以ナリ而シ
テ此規則ハ佛國商法第百十五條乃至第百十
七條伊國商法第百一一條乃至第百四條和
蘭商法第百四十條乃至第百四十八條西國商
法第百四十八條乃至第百四十四條ニ之
ヲ掲ク又英國ニ係リテハ、レウ、レ、萬國商法第

一冊第四百五十四葉ヲ参考スヘシ独逸為替
條例ハ此點ニ就テ一モ定ムル所ナシ何トナ
レハ為替法ニ適セサル囑託ノ主義ヲ之ニ施
サント欲シタレハナリ(商法雜誌第十三冊第
二百六十三葉以下)

本條ニ於テ為替資金義務者ノ義務ヲ定ムル
ハ之ヲ為替法ノ原則ニ基カシム即チ為替面
ノ文言ニ依ラシムルモノナリ是別ニ合法ノ
原因(殊ニ実ニ取結ヒタル囑託契約)ヲ必要ト
セサル所以ナリ是故ニ支拂人ハ總テ為替ノ
振出人ヨリ為替資金ヲ請求スルヲ得テ別ニ
自己ト振出人トノ間ニ囑託關係ノ存スルト
ク澄明スルヲ須ヒス隨テ第六百九十九條ハ
為替資金ノ關係ニモ適用スルヲ得ヘク特リ
為替金支拂ノ義務ヲ論スルニ止マラス振出
人ハ自然ニ為替資金ノ義務アリ且其氏名ハ
必ス為替面ニ存セサルヘカラス然レモ自己

ノ計算ヲ以テ他人ニ為替ヲ振出サシメタル者ハ自己ノ氏名ヲ為替面ニ記載スルヲ常トス(必スシモ緊要トセス)裏書人ニ至テハ之トカラスト雖モ其為替資金ノ義務ハ之ヲ明記スルヲ須ヒス是ニ於テ左ノ區別アリ何ク振出人ハ必ス為替面ニ明ナラサル可ラス否サレハ其為替抑モ効力ナシ自己ノ計算ヲ以テ他人ニ為替ヲ振出サシメタル者ハ必スシモ為替面ニ明記セラル、ヲ要セス唯氏名ノ頭文字ヲ記スルト多ク餘ハ皆之ヲ振出通知書(支拂人ニ送ルモノ)ニ讓ル裏書人ニシテ為替

資金ノ義務ヲ引受ケタル者ハ其氏名ヲ為替面ニ記載スルヲ要スト雖モ其義務ヲ引受ルニハ為替面ニ於テスルモ別紙ヲ以テスルモ可ナリ凡テ是等ノ場合ニ於テハ為替ノ文言ヲ以テ充分トスルアリ或ハ別ニ義務引受ノ證明ヲ要スルトアリ然レ氏事実上ノ合法ノ原因ニ至リテハ之ヲ證明スルヲ須ヒス若夫委託者ノ氏名ニシテ為替面ニ存スルモノ果シテ偽造ニ出テ実ニ委託ヲ為シタルニ非サル中ハ此委託義務者ヲ負フノ限ニ在ラサルト論ヲ俟タス何トナレハ之カ為メニ其為替偽物トナルモノナレハ第七百八條ニ依リ其

偽名セラレタル人ニ義務ヲ負ハレハハカラ
サレハナリ(フラワール第三冊第四十七葉以
下ボルシヤルド第百七十五葉註釋トヨール
氏為替法第七十二條)

他人ノ計算ヲ以テ為替ヲ振出ス者ハ大概仲
買人及取次人等都テ商業代理人トシ是ノ如
キ為替ヲ名テ名代為替ト云フ然レモ他ノ原
由ヨリシテ此ノ如キ為替ヲ振出ス丁アリ例
之ハ此ニ債主ニシテ負債者ノ許諾ヲ得以テ
或ハ其負債者ノ負債者ニ宛テ振出スカ如シ
(フラワール第三冊第四十九葉)殊ニ賣主ハ其
買主ニ宛テ先買主ノ再買主ニ賣却シタル商

品ニ對シ先買主ノ計算ヲ以テ振出ス丁ヲ得
ヘシ又為替ノ相場ニ依リ為替賣却ヲ以テ利
ヲ博スル丁アリ是殊ニ銀行ニ於テ仲買人或
ハ仲立人ヲシテ我計算ヲ以テ相場賸貴ノ地
ニ宛テ為替ヲ振出し之ヲ相場會所等ニ於テ
賣却セシムル丁アル所以ナリ

振出委託者(トシニヨール、トルドル)ト為替請
求人即チ買主(トシニヨール、ワリヨール)ト
ハ混同ス可ラス為替請求人ハ其振出サシメ
タル為替ニ就テ責ヲ有セス例之ハ金ヲ他ノ
地ニ送ラン為メニ為替ヲ銀行等ニ請求シ其
金ヲ支拂ハン牧其為替ニハ振出しタル銀行

ト支拂人ト受取人即チ其送付ノ金額ヲ受ク
ヘキ人トノ名ヲ掲クルモノニシテ今此ノ作
用総テ請求人ノ委託ヲ以テ成ルト雖モ其人
ノ名一モ為替面ニ觀ルヘカラス以テ此人ノ
為メニ一モ義務生スルナシ何トナレハ其
振出シタル人ニ既ニ金額ヲ償フタレハナリ
此ノ如ク為替ヲ以テスル所ノ金莫送呈ニ自
己ノ計算ヲ以テスルモアリ又他人ノ計算ヲ
以テスルモアリ而シテ推理上ノ關係ニ至テ
ハ之カ為メニ變更スル所ナシ例之ハ他人ノ
為メニ幾千ノ現金ヲ取立テ此他人ノ計算ヲ
以テ為替ヲ買ヒ之ヲ彼ニ送致スルカ如シ今

ヤ銀行ハ人ノ為メニ金銀出納ノ事ニ任スル
カ故ニ他人ノ計算ヲ以テ為替ヲ振出サシメ
以テ之ヲ送致セシムルモ其銀行ノ名ハ必ス
シモ為替面ニ載スルナク又其為替ヨリシ
テ義務ヲ負フナラサルナリ(ブラワール第
三冊第五十一葉)裏書人亦為替資金ノ義務ヲ
負フナラハ已ニ第七百十四條ノ説明ニ之
ヲ述フ佛國商法第百十五條ニハ唯振出人及
振出委託人ニ就テ定ムル所アリ此規則ニ増
補ヲ加フルハ必要ナルニ似タリ蓋シ裏書人
ノ為替資金ノ義務ヲ引受ルハ振出人ノ氏名
唯名義而已ニ止マリ其為替唯受取人ノ計算

ヲ以テ更ニ他人ニ讓渡スヲ以テ目的トシ
受取人ヲシテ満期ヨリテニ其金額ヲ調達ス
ルトヲ得セシムル片ニ在スルモノナリ然レ
氏此ノ如キ關係ハ裏書人ノ地位ヨリシテ自
ラ然ルニ非サルカ故ニ之ニ関スル約束ハ明
言ヲ以テセサルヘカラス而シテ為替面ニ之
ヲ記スルト否トハ同一ニシテ唯第二百七十
七條ニ循ヒ紙上ヲ以テスルヲ要スルノ裏
書人ハ其裏書ニ由リ生スル為替負債ニ就テ
多少新規ノ振出人ト看做スヘキモノナレハ
其為替資金ノ義務ヲ負フト原則上ヨリ論シ
テ矛盾スル所ナシ(トヨール氏為替法第七十

二條第三)又債主ニシテ他人ヲ以テ振出人ト
シ自己ヲ以テ受取人トシ負債者ニ宛テ為替
ヲ振出サシメ以テ負債ノ引受ヲ得ントスル
トアリ此場合ニ於テハ支拂人(負債者)ニ支拂
フヘキ為替資金ハ即チ其受取人(債主)ニ負フ
所ノ負債タリ
為替資金義務者數人間ノ關係ハ連帶義務ニ
非スシテ甲ノ義務存スルモ乙ノ義務消滅ス
ルトナシ唯事情ト雙方ノ趣意ヨリシテ其連
帶義務タルト明ナル片ヲ例外トスルカ故ニ
振出人ニシテ為替ヲ振出スニ其委託者ノ計
算ヲ以テシタル時ハ其義務ナシ何トナレハ

支拂人ハ其委託者ヲ眞個ノ義務者トシテ引
受タルモノナレハナリ佛國商法第百十五條
ニハ唯振出人ニ就テ右ノ主義ヲ是認シ其破
毀裁判所ニ於テ下シタル判決亦然リ然レ氏
千八百十七年三月十九日ノ法律ヲ以テ此ノ
場合ニ於テ振出人ハ唯受取人ト裏書人トニ
對シテ償還義務アリ支拂人ニ對シテハ然ラ
スト定メタリ其裁判所モ多クハ此意ヲ以テ
裁断ス(アラワール第三冊第五十葉及第四百
八十五葉以下)独逸和蘭西國ニ於テモ亦同一
ノ原則行ナル(ホルンヤルト註釋第二百零八
十一條商法雜誌第八冊第百四十六葉和蘭商

法第百六條及第百四十一條西國商法第四百
四十九葉)此ノ如キ場合ニ於テ支拂人ノ振出
人ニ對シ償還要求權ヲ得ルハ唯其振出人ノ
爲メニ参加人トシテ引受ヲナシ或ハ支拂ヲ
タル時ニ限ル(アラワール第三冊第百八十
九葉)本葉第七百四十四條及第七百六十八條
受取人又ハ裏書人ニシテ自ラ為替資金ヲ為
ストノ約束ヲ以テ振出人ヲシテ為替ニ署名
セシメタル片ハ其為替資金ノ義務ハ後者ニ
在ラズシテ前者ニ在リ又此ノ如キ故障ハ償
還債要求ニ對シテモ之ヲ申立ツルト得ヘ
シ(ホルンヤルト註釋第六百五十一條第一項

第四百七十七條

為替資金ハ為替金ノ如ク確定ノ金額ニ非ス
シテ積還金ト同シク元金ニ利子ト費用トヲ
併セタルモノナリ(和蘭商法第百四十二條西
國商法第百五十一條)此外特別ノ報酬(大約
為替金高二百分ノ一或ハ三百分ノ一)ヲ要求
シ得ルハ明約又ハ習例(仲買人銀行高等ニ於
ルカ如シ)アル中ニ限ル而シテ支拂人ニシテ
為替資金ヲ得タル中ハ其為替ヲ引渡スヘシ
(トヨール氏為替法第七十一條)

第八百四條

現金支拂ノ外為替資金義務者カ支拂人ニ對シ
テ有スル債權又ハ信用ハ之ヲ為替資金ニ充ツ
ルトヲ得

為替資金ハ満期日ニ方リ支拂ノ地ニ於テ支
拂人ノ處分ニ歸シタル中即チ他ノ目的ノ為
メニ既ニ束縛セラレサル中ニ存スルモノニ
シテ他ノ負債ノ辨償例之ハ支拂切手ノ支拂
ニ備ヘ或ハ為替ノ満期日ニ於テ未タ満期日
ニ至ラサル預ケ金額即チ未タ流通スヘカラ
サルモノ、如キハ未タ處分シ得ヘキ為替資
金ト為スヘカラス今銀行ニ十二ヶ月ヲ限ト

レ預ケタル金額ハ其銀行ノ許諾ナクシテ此
十二ヶ月ヲ經過セサル前ニ為替資金トシテ
用ユルヲ得ス是ヲ以テ為替資金ハ保證金ト
區別セサルハカラヌ未夕満期日ニ至ラサル
預ケ金ハ一モ保證金トスルニ害ナシト雖モ
之ヲ以テ為替資金ト為ス能ハス又為替資金
ニシテ唯其幾分ヲ存スル中ハ為替ノ引受及
支拂ハ唯其部分而已ニ係ル丁ヲ得ヘシ
本條ハ是意ヲ以テ解釈スヘキモノニシテ佛
國商法第百十六條ト照應スルモノナリ(本業
第六百五十七條及フヲ知エーフヲテレー氏
商法説明第百十四條)今ヤ満期日ニ方リ支

拂地ニ於テ為替資金ノ處分スヘキモノタル
トヲ明掲スルハ必要ニ非ス何トナレハ為替
資金ト保證金トノ別ヲ知レハ是自カラ掲ク
ト雖モ其解釈ニシテ當ヲ得サレハ却テ誤謬
ヲ生スヘシ
支拂人ニ送付シタル商品ニシテ其賣價ヲ以
テ為替所持人ニ支拂フヘキニ其商品未夕賣
却セテレサル中ハ支拂人ノ罪ニ歸スヘキニ
非サレハ之ヲ以テ為替資金ト為ス能ハス然
レ氏此際若シ振出入或ハ支拂人破産シタル
時ハ權宜上ヨリ其商品ヲ以テ為替資金ト看
做シテ為替所持人ニ之ヲ配與スル丁多トス

(レ)ヒ一萬國商法第一冊第四百五十四條及第四百五十五條

第八百五條

方式ニ依ラサル引受ト雖モ其引受ニ依リテ引受人カ為替資金義務者ヨリ為替資金ヲ受取りタリトノ推定ヲ生ス但参加引受ヲ為シタルハ此限ニ在ラス

第八百六條

為替資金義務者ト所持人トノ間ニ在テハ為替手形ノ引受ニ依リテ為替資金ヲ供シタリトノ推定ヲ生セス

引受アレハ為替資金義務者既ニ為替資金ヲ與ヘタリト思料スヘシトノ原則ハ獨逸法律ニ採用セス佛國商法第百十七條ニ基キタハ

者ニシテ伊國商法第二百三條ニモ亦此規則
ハ此思料ニ基クモノニシテ支拂人ノ振出人
ニ對シテ責アルト為替所持人ニ對スルカ如
キモノトス蓋シ獨逸為替法ニ於テハ此思料
ヲ法文ニ掲クルトナク立法上ノ理由ニ供ス
ルニ過キス今ヤ此思料ノ實際其當ヲ得タル
ヤ否ニ就テハ異議アルヲ免カレヌ(トヨール
氏為替法第七十一條)ト雖モ通例支拂人ノ引
受ヲ為スヤ報酬或ハ擔保ヲ得或ハ振出人ニ
信用ヲ與フル等ヲ以テ其引受ノ義務ヲ引受
ルノ後ニ在ルヲ商業習慣トシ(フラウエール氏
獨逸為替法第三條說明)又引受ヲ以テ振出

人及ヒ為替所持人ニ對スル義務ト看做ス
商業上ノ慣習ニシテ凡ソ義務ヲ引受ルニハ
必ス權利若クハ義務上ノ起由アリ故ニ引受
ニシテ存スレハ為替資金上ノ關係既ニ整備
シタリト視ルハ理由アリトス加之思料ニ
止マルカ故ニ反對證ヲ舉ルヲ許ス然レ氏其
舉證義務ハ振出人ニ在ラスレテ引受人ニ在
リ(フラウール氏第三冊第二百七十三條)又此思
料ハ唯振出人ト支拂人トノ間ニ効力アリ振
出人ト所持人トノ間ニ及ホス一カラサルハ
第八百六條ニ掲クルカ如シ其支拂人ト所持
人トノ間ニ於テ亦同シ何トナレハ為替資金

ノ事ハ專ラ為替資金義務者ト支拂人トノ間
ニ於ケル取引而已ニ関スレハナリ
佛國商法第百十七條ノ意ヲ了解シ易カラシ
メン為メニ此ニ一言ス即チ其第一段ハ振出
人ト支拂人トノ關係第二段ハ裏書人ト支拂
人トノ關係ヲ示シ第三段ハ所持人及裏書人
ノ振出人ニ對スル償還ノ訴訟若クハ非理ノ
利ヲ得タルトノ訴訟ニ係リ此點ニ就テハ同
第百七十條ト連屬ス是ヲ以テ振出人満期日
ニ於テ支拂人ニ為替資金ヲ貸ハタルトテ證
明セサル時ハ假令ヒ償還要求期限ノ經過シ
タル後ト雖モ償還訴訟ヲ蒙ムラサルハカラ

ス所謂振出人ニ對スルノ思料ヲ掲ケ奉證義
務ヲ之ニ負ハシメタリ然レ氏受普通ノ原則
ヲ以テ奉證義務ヲ定ムル所ノ本條第七百十
四條ニ記シタル非理占利訴訟ノ原則ト相適
セス是ヲ以テ第八百六條ニ於テハ唯引受マ
ルカ為メニ為替資金アリトノ思料ハ所持人
ノ為メニ不利ナルニ非ス又振出人ノ為メニ
利アルニ非スト定メタリ以テ通常ノ奉證法
ニ因リ原被雙方共ニ其中立ヲ證スヘシトス
為替資金アリトノ思料ハ法式ニ依ラサルノ
引受即チ紙面ニ於テセス或ハ別紙ヲ用ヒテ
為替面ニ記セス或ハ四附ヲ脱シタル引受ニ

於テモ之ヲ下ス丁ヲ得ハシ何トナレハ法式
ニ依ラサル引受ト雖モ支拂人ニ與ハタル囑
託ヲ承諾シ既ニ之ヲ承諾スレハ其囑託施行
ノ為メニ要スル資金ヲ送りタリトノ推斷ヲ
下スヲ得レハナリ佛國ニ於テモ此意ニ出テ
法式ヲ踐マサルノ引受ヲ以テ有効ナル者ト
スルナリ(ブラワール第三冊第二百四十二條
以下本棗第七百三十七條)
若夫レ引受ニシテ參加ニ出テタル時ハ為替
資金アリトノ思料ヲ下ス丁誌ハス其參加ニ
出ルモノハ第七百四十四條及第七百六十八
條ノ説明ヲ以テ已ニ明ナリ

第八百七條

為替手形ノ支拂ヲ為シタル支拂人ハ為替資金
ノ請求權ヲ為替ノ原則ニ從ヒテ主張スル丁ヲ
得

本條ニハ二事ヲ定メタリ一ハ支拂人為替ヲ
支拂フタル後ニ非サレハ為替資金ノ要求ヲ
為ス能ハス一ハ此場合ニ於テ振出人ニ對シ
為替上ノ訴訟ヲ起スヲ得ル是ナリ支拂人未
タ為替ヲ支拂ハサル中ハ振出人ニ對シ惟タ
囑託上ノ關係ヲ有スルニ止マルカ故ニ為替
資金ヲ要求スルヲ得ヘシト雖モ唯民法上ニ
於テシ且其取結ヒタル委託契約ノ文言ニ因

ヲサハル可カラヌ(フ)ラワール第三冊第二百六
十八條)若シ既ニ其支拂ヲ為シタル中ハ支拂
人其為替ヲ領受シ此ニ至リテ受取ヲ記シタ
ル為替ニ依リ所持人タルノ權利ヲ施用スル
トヲ得(フ)ラワール第三冊第四百八十三條)此
點ニ就テハ異論アルヲ免レス独逸為替法ノ
如キ第二十三條ニ於テ明ニ之ヲ否セリ蓋シ
支拂人ニシテ為替資金要求ノ訴ヲ起サント
欲セハ自己ト振出人トノ間ニ存スル特別ノ
權利上ノ關係ヲ根拠トシ其訴訟權ヲ證セサ
ルヘカラストノ理由ニ出ツ(ト)ヨール氏為替
法第七十一條)然リト雖モ振出人ハ其為替面

ノ署名ニ依リ支拂人ニ對シ義務アルト猶ホ
所持人及裏書人ニ對スルカ如シ振出人ニシ
テ支拂人ノ支拂ヲ為シタルカ為メニ所持人
ヨリ償還要求ノ訴訟ヲ受クルトヲ免ル、ニ
於テハ為替上ノ為替資金訴訟ヲ免ル、ノ理
由アルヲ見ス為替資金ノ訴訟ノ償還要求ノ
訴訟ニ同シキハ独リ確定ノ金額ニ止マラス
候セテ其利子及他ノ費用ニ及フトヲ以テモ
證スヘシ又忝加支拂ノ原則ヲ以テ右理由ノ
根拠トスルヲ得ヘシ(佛國商法第百五十九條
唯其異ナル所ハ支拂人ハ獨リ振出人及其他
ノ為替資金義務者ニ對シ其要求ヲ為スヲ得